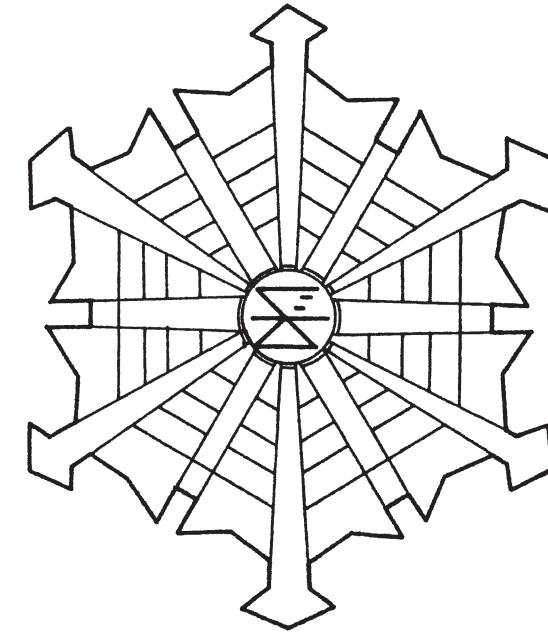


平成 24 年 版

消防年報



長 泉 町 消 防 本 部

(平成25年刊行)

は じ め に

この年報は、平成 24 年中の長泉町における、消防現勢及び業務の実績並びに大規模地震等の対策を含めた、消防力の状況及び消防諸般の状況を集録し、今後の消防行政の参考に資するとともに、消防に対する関心と認識を深めていただくことを目的として編集しました。

消防行政の実態をご理解いただき関係各位のご指導ご協力をお願いします。

なお、この資料は原則として歴年をもって表し、予算関係等については会計年度をもって作成しております。

平成 25 年 4 月

長 泉 町 消 防 本 部

〒411 - 0942

静岡県駿東郡長泉町中土狩 910 番地の 1

電 話 055-986-1199

F A X 055-986-5907

E - m a i l syobou@nagaizumi.org

目 次

1 消防の概況

長泉町の位置と管内情勢	1
長泉町管内図	2
消防本部・消防署のあゆみ	3-6
消防団のあゆみ	7-9
消防の組織	10
予 算	11
{ 一般会計予算額と消防費予算額との比較 消防費予算額の内訳 消防費予算額の人口世帯費	
消防力の整備指針と現有消防力	12
消防職員の年齢・階級別表	13
消防団員の年齢・階級別表	13
消防本部の配備車両	14
消防団の配備車両	14
消防無線施設の状況	15
消 防 水 利	16

2 火災の状況

火災の概要	17
火災種別前年比較	17
消防本部・署 消防団火災出場状況	18
覚知別火災発生状況	18
原因別件数	19
平成 24 年月別火災発生状況と前年比較	20
曜日別・時間別火災件数	21
時間別放火件数	21
平成 24 年火災発生状況一覧表	22
過去 10 年間の火災発生状況と本年比較	23
過去 10 年間の火災件数と損害額の推移	24

3 予防業務の状況

予防業務の概要	25
防火管理実施概要	25
防火対象物数及び査察状況	26
消防同意の事務処理状況	27
予防関係事務処理状況	27
防火管理資格取得講習開催状況	28
消防用設備等の検査状況	28
危険物規制	29
危険物施設	29
危険物関係事務処理状況	31
自衛消防組織等を設ける事業所	32
消防法による届出状況	33
火災予防条例による届出状況	33
訓練指導等の状況	34
65 歳以上の高齢者世帯に対する防火診断実施状況	34

4 救急業務の状況

救急業務の概要	35
年別救急活動状況	36
年別救急状況	37
救急出場事故種別割合	37
月別救急活動状況	38
救急隊員の行った応急処置	39
急病にかかる疾病分類傷病程度別搬送人員	40
事故種別・年齢区分別・傷病程度別搬送人員	41
時間別救急出場件数	42
曜日別救急出場件数	42
地域別月別出場状況	43
地域別月別搬送人員	43
新東名高速道路出場状況	43
救急救命士の状況	44

救急救命士運用状況
救命処置実施状況
心肺蘇生対象者収容医療機関状況

現場到着時心肺停止傷病者の状況	45
心肺停止傷病者に対する心肺蘇生実施状況 バイスタンダー実施状況	
応急手当普及講習実施状況	46
5 警防・救助業務の状況	
警防業務の概要	47
救助業務の概要	47
年別警防活動状況	48
月別警防活動状況	49
年別救助活動状況	50
月別救助活動状況	51
救助出場人員及び出場車両	52
6 気象・通信の状況	
気象の概要	53
気象の状況	54
平均気温と平均湿度の比較	55
平均風速と降水量の比較	55
災害受付件数	56

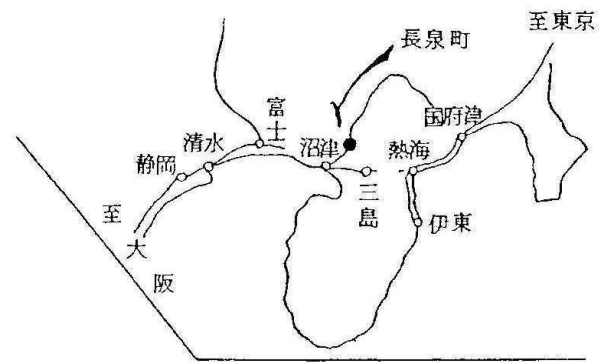
1 消 防 の 概 況



(出初式写真コンクール消防団長賞)

長 泉 町 の 位 置 と 管 内 情 勢

面 積 26.51 km²
広 ぼう 東西 2.5 km
南北 13.5 km
位 置 東経 138° 54'
北緯 35° 07'
海 抜 52m



※交通機関

- 御殿場線下土狩駅
- 御殿場線長泉なめり駅
- 東海道線三島駅
- 東海道新幹線三島駅
- 国道 1 号線
- 国道 246 号線
- 東名高速自動車道路
- 新東名高速自動車道路
- 伊豆縦貫道

静岡県東部、駿東郡の南部に位置し、東西を三島市・沼津市に、南北を清水町・裾野市の境を接しています。

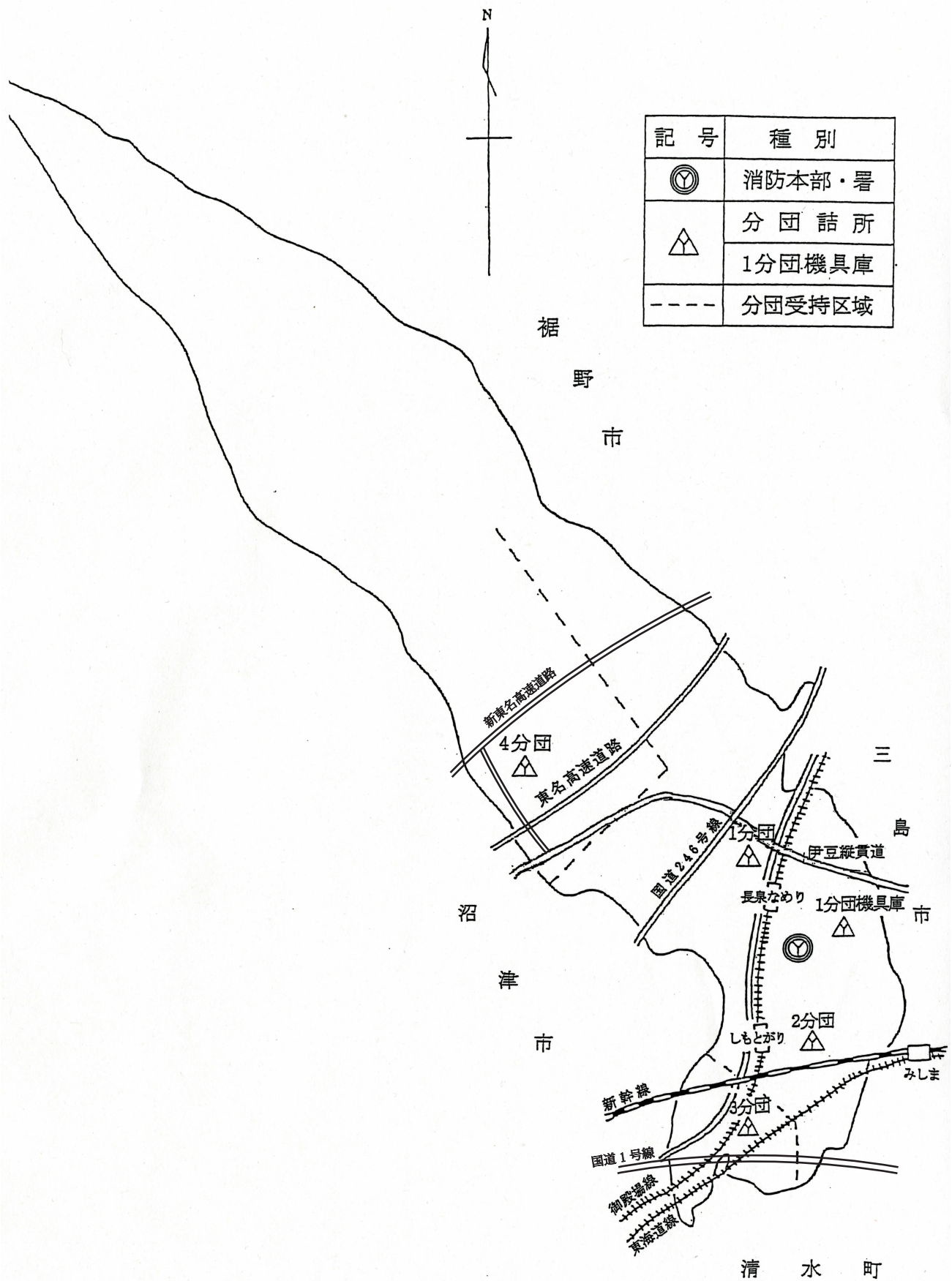
1,360m の愛鷹山頂より森林地帯を経て、畑地が次第に広がり、東南部の水田地帯は工場、住宅地に変ぼうしています。本町のほぼ中央に黄瀬川が流れ、愛鷹山より発する桃沢川を合して狩野川に合流しています。

富士の眺望はすばらしく箱根の連山を東に控え、気候温和な土地となっています。

人口は、41,912 人（男 21,002 人・女 20,910 人）、世帯は、17,025 世帯である。

※人口については、平成 25 年 4 月 1 日現在の外国人登録法による人口を含む。

長 泉 町 管 内 図



消 防 本 部 ・ 消 防 署 の あ ゆ み

昭和45年	4月	消防本部・消防署設置（本部4名・署10名）
	4月	水槽付消防ポンプ自動車（A2級・1500ℓ）を配置する
	4月	指令車（ブルーバードワゴン）を配置する
	4月	三島市消防署との専用電話を設置する
昭和45年	5月	消防本部・消防署の所在地を長泉町中土狩867番地の4とする
	5月	鉄骨スレート2階建331.7㎡ 敷地面積504.7㎡
昭和45年11月		消防無線予備免許状が交付される（153.55MHz）
昭和45年12月		山ノ内製薬から救急自動車が寄贈される
昭和46年	1月	救急業務を開始する
昭和46年	6月	自治省告示110号にて消防本部・署の設置指定
	6月	自治省告示111号にて救急業務実施指定
	6月	消防無線免許交付される
昭和46年11月		消防無線周波数変更（149.75MHz）
	11月	I型化学消防自動車を配置する
昭和46年12月		作業用トラック（ニッサンチェリー）を配置する
昭和47年	2月	中土狩電話局開局に伴い86局119番設置
昭和47年10月		東京電力との専用電話が設置される
	10月	消防無線県内共通波（149.69MHz）を増波する
昭和47年11月		ラッパ隊及び救助隊が発足する
昭和48年	3月	119番モニター装置を設置する
昭和48年	4月	県防災無線を設置する
昭和50年	4月	日本損害保険協会から小型消防ポンプ車が寄贈される
昭和50年10月		車庫を増築する（鉄骨スレート53.4㎡）
昭和50年12月		消防無線呼出名称を変更する
昭和52年10月		仮眠室を増築する（鉄骨スレート48.19㎡）
昭和52年12月		日本損害保険協会から救急自動車が寄贈される
昭和53年	7月	本部事務室を増築する（鉄骨スレート38㎡）
	7月	長泉農協から指令車が寄贈される
昭和54年	3月	消防救急一斉指令装置を設置する
昭和55年	3月	訓練塔を設置する
昭和55年	4月	同時通報無線装置を設置する

昭和 55 年	12 月	食堂を増築する (19.8 m ²)
昭和 57 年	4 月	町安全課廃止に伴い防災業務が消防本部へ移る
昭和 58 年	10 月	駅前地区に飲料水兼用耐震貯水槽(100 t)を設置する
	10 月	県防災ファクシミリ受信装置子局を通信室へ設置する
昭和 58 年	11 月	水槽付消防ポンプ自動車を更新する (Ⅱ型)
昭和 59 年	3 月	消防無線周波数を変更する (153.55MHz)
昭和 59 年	8 月	救急 1 号車を更新する
昭和 60 年	3 月	非常用防災無線塔を役場屋上に設置する
昭和 60 年	7 月	日本損害保険協会から小型消防ポンプ自動車が寄贈される
昭和 60 年	12 月	救助工作車を配置する
昭和 61 年	1 月	新庁舎建設用地を中土狩地先に購入する (1,126 m ²)
昭和 61 年	3 月	防災用電話ファクシミリを通信室へ設置する
昭和 62 年	4 月	沼津市消防本部と人事交流を実施する
昭和 62 年	6 月	長泉農協から救急用資機材が寄贈される
昭和 62 年	8 月	救急 2 号車を更新する
	8 月	作業車を更新する
	8 月	指令車を更新する
昭和 62 年	9 月	新庁舎の設計業務を委託する
昭和 62 年	10 月	119 番の複線化が完了する
昭和 63 年	3 月	新庁舎の設計業務が完了する
	3 月	沼津市消防本部と人事交流を終了する
昭和 63 年	4 月	消防本部・消防署の組織を改編する
	4 月	消防職員の定員を 30 名とする
昭和 63 年	6 月	新庁舎起工式を挙げる
平成 元年	2 月	新庁舎竣工
	2 月	消防救急一斉指令装置を更新する (Ⅰ型)
平成 元年	3 月	新庁舎にて業務開始
	3 月	気象観測装置を設置する。
平成 2 年	4 月	消防職員の定員を 34 名とする
平成 2 年	8 月	全国救助技術大会 (広島市) に出場 (ロープ応用登はん)
平成 2 年	9 月	油圧式救助器具を配備する
平成 3 年	5 月	救急車に自動車電話を設置 (2 台)
平成 3 年	8 月	全国救助技術大会 (東大阪市) に出場 (ロープブリッジ渡過)
平成 4 年	5 月	河川情報システム導入
平成 5 年	4 月	週休 2 日制に伴い 3 当務 1 休実施

平成	5年	6月	県総合情報ネットワークシステム運用開始
平成	6年	4月	消防本部の組織を改編し管理課を設置
		4月	消防職員の定員を40名とする
平成	6年	7月	広報車を配置する
平成	6年	12月	救急1号車を更新し高規格救急車を配置する
平成	7年	8月	化学防護服整備(2着)
平成	7年	12月	消防サイレン吹鳴装置更新(アンサーバック方式)
平成	8年	12月	救急救命士資格取得(1名)
		12月	消防無線全国波(150.73・148.75・154.15MHz)を増波設置する
		12月	水槽付消防ポンプ自動車を更新する(Ⅱ型)
平成	9年	3月	同時通報無線施設改良工事(6か所)
平成	9年	4月	消防職員の定員を44名とする
平成	9年	11月	救急救命士資格取得1名(救急救命士2名となる)
平成	9年	12月	水槽付消防ポンプ自動車を更新する(ⅠB型)
平成	10年	3月	同時通報無線施設改良工事(18か所)
平成	10年	4月	消防職員の定員を45名とする
平成	10年	10月	携帯電話119番受信専用電話設置(2台)
平成	10年	11月	救急2号車を更新し高規格救急車とする
		11月	救急救命士資格取得1名(救急救命士3名となる)
平成	10年	12月	同時通報無線戸別受信機更新
平成	11年	3月	同時通報無線施設改良工事終了(デジタル化)
平成	11年	4月	消防職員の定員を47名とする
平成	11年	5月	救急救命士資格取得1名(救急救命士4名となる)
平成	12年	2月	(社)日本損害保険協会から救助工作車が寄贈される(Ⅱ型)
平成	12年	3月	消防庁舎改修工事
平成	12年	4月	消防本部・消防署の組織を改編する
		4月	沼津市消防本部と人事交流を実施する
平成	13年	3月	指令車・作業車を更新する
平成	13年	4月	消防職員の定員を48名とする
		4月	救急救命士資格取得1名(救急救命士5名となる)
平成	14年	3月	沼津市消防本部と人事交流を終了する
		3月	救急救命士資格取得1名(救急救命士6名となる)
平成	15年	4月	三市二町(沼津市・三島市・裾野市・長泉町・清水町) 消防通信指令施設共同運用開始

平成16年	2月	デジタル地域防災無線・防災無線LANシステム設置
平成16年	3月	救急救命士資格取得1名（救急救命士7名となる）
平成16年	4月	防災業務が町長部局へ移る
平成16年	11月	救急救命士資格取得1名（救急救命士8名となる）
平成17年	2月	救急1号車（高規格救急車）を更新する
平成17年	4月	隔日勤務者の勤務体制を2班制から3部制とする
平成17年	8月	予防広報車を更新する
平成17年	11月	救急救命士資格取得1名（救急救命士9名となる）
平成19年	4月	救急救命士資格取得1名（救急救命士10名となる）
平成20年	12月	救急2号車（高規格救急車）を更新する
平成22年	3月	消防署仮眠室を個室にする
平成22年	4月	救急救命士資格取得1名（救急救命士11名となる）
平成23年	3月	東日本大震災に緊急消防援助隊静岡県隊として消火部隊・後方支援部隊24名を派遣
平成23年	4月	救急救命士資格取得者1名（救急救命士12名となる）
平成23年	12月	JA共済連より高規格救急自動車1台（救急3号車）を寄贈
	12月	庁舎東側に車庫を建築する（鉄骨スレート79.19㎡）
平成24年	3月	水槽付消防ポンプ自動車を災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）に更新する
	3月	緊急消防援助隊登録車両を災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）とする

消 防 団 の あ ゆ み

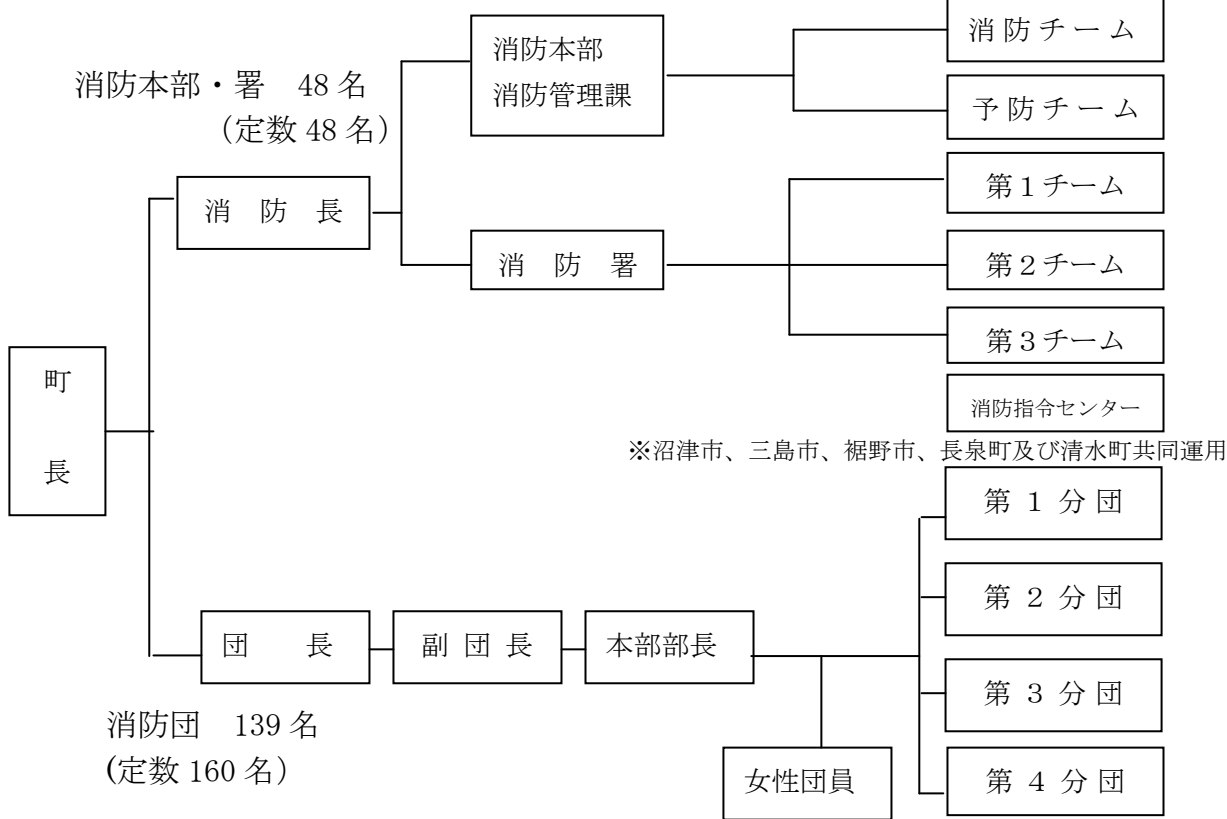
明治27年	5月	県令第36号消防組規則発布により、私設消防にかわり 公設消防100名をもって発足する
明治39年	5月	消防組織変更9部制348名となる
大正8年	4月	消防組9部制を8部制とし、329名となる
大正12年	3月	上長窪から出火し13戸36棟を焼失する
大正12年	9月	関東大震災が発生し復旧作業に活躍する
昭和2年	12月	下長窪から出火し10戸31棟を焼失する
昭和5年	11月	伊豆大震災が発生し復旧作業に活躍する
昭和14年	2月	警防団令公布により8箇分団345名となる
昭和22年	5月	消防団令公布施行により8箇分団245名となる
昭和23年	7月	消防組織法が施行される
昭和30年	3月	消防団8箇分団を3箇分団に縮小し、消防ポンプ車3台 を配備し127名となる
昭和31年	4月	上長窪・元長窪を第1分団分遣所と称し20名を配置し 定数102名となる
昭和31年	7月	静岡県消防協会より表彰旗の表彰を受ける
昭和32年	4月	消防団を再編成し4個分団となる
昭和44年	8月	第2分団静岡県消防ポンプ査閲大会で準優勝となる
昭和44年	12月	第2分団詰所を鉄骨スレート2階建67.14㎡に新築 する
昭和46年	8月	第1分団詰所を現在地（納米里）に移転する
		鉄骨スレート2階建80.00㎡に新築する
	8月	第3分団詰所を鉄骨スレート2階建80.00㎡に改築 する
昭和47年	2月	日本消防協会より竿頭綬の表彰を受ける
昭和48年	4月	副団長3名制とし、定員103名となる
昭和48年	8月	静岡県消防規律訓練査閲大会で準優勝となる
昭和48年	10月	消防団ポンプ車に無線傍受器を設置する
昭和51年	3月	分団詰所に通信指令室直通電話を設置する
昭和53年	10月	第2分団詰所を現在地（薄原上）に移転する
		鉄骨スレート2階建80.00㎡に新築する
昭和54年	9月	第4分団に消防ポンプ自動車（CD-II型）を配備する

昭和 5 6 年	8 月	第 3 分団が静岡県消防操法査閲大会に出場し、小型ポンプ操法の部で準優勝となる
昭和 5 7 年	9 月	第 4 分団詰所を鉄骨スレート 2 階建 99.40 m ² に改築する
昭和 6 0 年	8 月	静岡県消防規律訓練査閲大会に出場する
昭和 6 1 年	1 1 月	第 3 分団消防ポンプ自動車を更新する (C D - II 型)
昭和 6 1 年	1 2 月	旧第 3 分団消防ポンプ自動車を中国蘭州市に寄贈する
昭和 6 2 年	2 月	日本消防協会より表彰旗の表彰を受ける
昭和 6 2 年	5 月	中国蘭州市に親善視察団を派遣する
昭和 6 3 年	1 2 月	第 2 分団消防ポンプ自動車を更新する (C D - II 型)
平成 3 年	1 2 月	第 1 分団消防ポンプ自動車を更新する (C D - II 型)
平成 5 年	8 月	第 4 分団が静岡県消防操法査閲大会に出場し、小型ポンプ操法の部とポンプ車操法の部で第 3 位となる
平成 6 年	3 月	消防庁長官より竿頭綬の表彰を受ける
平成 7 年	1 2 月	第 4 分団消防ポンプ自動車を更新する (C D - II 型)
平成 8 年	4 月	消防団本部に女性消防団員(7 名)を導入し、定員 110 名とする
平成 1 1 年	2 月	第 1 分団詰所を鉄骨造 2 階建 104.00 m ² に新築する
平成 1 2 年	2 月	第 3 分団詰所を鉄骨造 2 階建 133.05 m ² に新築する
平成 1 2 年	4 月	第 4 分団詰所を改修する (脱衣室・シャワー室設置)
平成 1 2 年	9 月	消防団旗を更新する
平成 1 2 年	1 1 月	女性消防団員 7 名が応急手当指導員資格を取得する
平成 1 3 年	3 月	第 2 分団詰所を鉄骨造 2 階建 139.07 m ² に新築する
	3 月	消防庁長官表彰「表彰旗」受賞する
平成 1 3 年	7 月	4 箇分団の分団旗を更新する
平成 1 3 年	1 2 月	団本部用広報車を配備する
	1 2 月	第 3 分団消防ポンプ自動車を更新する (C D - II 型)
	1 2 月	旧第 3 分団消防ポンプ自動車を特種製紙株式会社三島工場に譲与する
平成 1 4 年	4 月	女性消防団に職階制を導入(女性消防団員 3 名増員) (女性消防団定員 10 名) 団員定員を 113 名とする
平成 1 4 年	1 0 月	長泉町消防団活性化総合計画を策定する
平成 1 4 年	1 1 月	消防団員 20 名が応急手当指導員資格を習得する
平成 1 6 年	3 月	第 2 分団消防ポンプ自動車を更新する (C D - II 型) 旧第 2 分団消防ポンプ自動車を海外支援協会を通じ ミャンマーに寄贈する

平成17年	8月	静岡県消防操法査閲大会に第3分団『ポンプ車操法の部』 4分団『小型ポンプ操法の部』が出場する 『ポンプ車操法の部』3番員が『最優秀賞』を受賞する
平成18年	2月	平成17年度全国消防団員意見発表会に第2分団室伏睦 班長が出場、『最優秀賞』を受賞する
	2月	消防出初め式写真展を開催する
平成18年	9月	長泉町消防操法査閲会を開催する（隔年事業）
平成19年	3月	第1分団機具庫を上土狩80番地の1にプレハブ造平屋 建、敷地面積179.19㎡、建築面積23.20㎡を 新築する
	3月	第1分団機具庫に小型動力ポンプ付積載車を配備する
平成19年	4月	長泉町消防団条例を改正し、定員150名体制とする
平成19年	5月	長泉町消防団協力事業所表示証を『特種製紙株式会社』 に交付する
平成19年11月		第1分団消防ポンプ自動車を更新する（CD-I型）
平成20年	3月	自治体消防60周年記念『消防庁長官表彰（平成19年 度消防団等地域活動表彰）』を受賞する
	3月	自治体消防60周年記念『全国消防職員・消防団員意見 発表会』に第2分団室伏睦班長が出場する
	3月	長泉町消防団協力事業所表示証を『社会福祉法人蒼樹会 さつき園』に交付する
	3月	日本消防協会より防災活動車（マツダボンゴ4WDAT 6人乗）を寄贈され、第2分団詰所に配備する
平成22年	2月	第2分団詰所を改修する（外壁塗装）
平成22年	7月	宝くじ助成事業を受け、信号ラッパ・大太鼓・小太鼓を 購入し、ラッパ隊を発足する
平成23年	3月	第1分団駐車を納米里地先に整備する
平成23年	4月	長泉町消防団条例を改正、定員160名体制とし、機能 別消防団員制度を導入する
平成24年	7月	長泉町商工会と協力し消防団サポーター事業を展開する
平成24年10月		長泉町消防団協力事業所表示証を『(株)岩崎ホームサービ ス』に交付する
平成24年11月		第4分団消防ポンプ自動車を更新する（CD-I型）

消 防 の 組 織

(平成 25 年 4 月 1 日現在)



歴 代 消 防 長			歴 代 消 防 署 長		
期 間	氏 名	備考	期 間	氏 名	備考
昭和 45. 4～昭和 52. 10	上 杉 茂	町長	昭和 45. 4～昭和 52. 11	諏訪部春夫	
昭和 52. 10～昭和 57. 3	高 橋 正 三	町長	昭和 52. 11～昭和 54. 6	高 橋 義 昭	
昭和 57. 4～平成 2. 3	米 倉 豊 治	助役	昭和 54. 7～昭和 57. 3	米 山 勝 身	
平成 2. 4～平成 8. 3	高 橋 義 昭		昭和 57. 4～昭和 62. 3	諏訪部春夫	
平成 8. 4～平成 10. 3	渡 辺 光 章		昭和 62. 4～昭和 63. 3	田 中 孝 之	人事交流
平成 10. 4～平成 12. 3	加 藤 明 己		昭和 63. 4～平成 2. 3	渡 辺 巖	
平成 12. 4～平成 15. 3	諏訪部豪夫		平成 2. 4～平成 3. 3	後 藤 富 男	
平成 15. 4～平成 17. 3	杉 山 夏 男		平成 3. 4～平成 7. 3	岡ノ谷守宏	
平成 17. 4～平成 22. 3	近 藤 紀 美		平成 7. 4～平成 8. 3	米 山 昌 広	
平成 22. 4～平成 23. 3	植松喜久雄		平成 8. 4～平成 13. 3	土 屋 正 之	
平成 23. 4～	鈴 木 慎 二		平成 13. 4～平成 22. 3	植松喜久雄	
			平成 22. 4～	渡 邊 満	

歴 代 消 防 団 長			
期 間	氏 名	期 間	氏 名
昭和 22. 11～昭和 26. 12	小 坂 勝 夫	昭和 52. 4～昭和 56. 3	杉 山 弘 昭
昭和 26. 12～昭和 28. 12	土 屋 新 作	昭和 56. 4～昭和 58. 3	鈴 木 清 作
昭和 28. 12～昭和 30. 3	小 坂 勝 夫	昭和 58. 4～平成 元. 3	笠 間 恵 一
昭和 30. 4～昭和 36. 3	太 白 弘	平成 元. 4～平成 5. 3	関 知 典
昭和 36. 4～昭和 38. 3	本 多 久 賢	平成 5. 4～平成 9. 3	高 田 泰 久
昭和 38. 4～昭和 40. 3	加藤喜三郎	平成 9. 4～平成 15. 12	浅 倉 茂 紀
昭和 40. 4～昭和 44. 3	本 多 久 賢	平成 15. 12～平成 21. 3	木 村 祐 三
昭和 44. 4～昭和 48. 3	吉 川 隼 朗	平成 21. 4～	加 藤 学
昭和 48. 4～昭和 52. 3	岩 崎 正 光		

予 算

一般会計予算額と消防費予算額との比較

区 分 年 度	一般会計当初予算額(A) (千円)	消防費当初予算額 (B) (千円)	(B) 消防費の割合 — (A) %
平成 20 年度	11,960,000	525,394	4.4
平成 21 年度	12,450,000	488,042	3.9
平成 22 年度	12,820,000	479,184	3.7
平成 23 年度	13,580,000	572,280	4.2
平成 24 年度	13,930,000	513,652	3.7

消防費予算額の内訳

区 分 年 度	消防費当初予算額 (千円)	費 目 別 予 算 額 (千円)		
		常備消防費	非常備消防費	消防施設費
平成 20 年度	525,394	477,372	38,987	9,035
平成 21 年度	488,042	426,727	50,464	10,851
平成 22 年度	479,184	426,806	39,228	13,150
平成 23 年度	572,280	511,913	48,123	12,244
平成 24 年度	513,652	438,680	58,338	16,634

消防費予算額の人口世帯費

区 分 年 度	消防費当初予算額 (千円)	比 較	
		人口一人当たり (円)	一世帯当たり (円)
平成 20 年度	525,394	13,191	32,973
平成 21 年度	488,042	12,117	30,083
平成 22 年度	479,184	11,773	29,167
平成 23 年度	572,280	13,871	34,382
平成 24 年度	513,652	12,255	30,170

消防力の整備指針と現有消防力

(平成 25 年 4 月 1 日現在)

	国の基準値		長泉町の現況	
	基準台数 (台)	基準人員 (人)	現有台数 (台)	現有人員 (人)
消防ポンプ自動車 (4 条、29 条、36 条)	4	6 4	2	3 6
はしご自動車 (9 条、29 条、36 条)	1			
化学消防車 (10 条、29 条、36 条)	2			
救急自動車 (15 条、30 条)	2	1 0	3	
指揮車 (17 条、32 条)	1	1 0	1	
特殊車等 (18 条)	2		2	
救助工作車 (16 条、31 条)	1	1 7	1	
小 計	1 3	1 0 1	9	3 6
通信員 (33 条)		5		3
予防要員 (34 条)		1 0		3
庶務の処理等のために必要な人員		6		6
小 計		2 1		1 2
合 計	1 3	1 2 2	9	4 8

※本表は、消防施設整備計画実態調査に基づき作成した資料である。

消防職員の年齢・階級別表

(平成 25 年 4 月 1 日現在)

階級 年齢	司 令 長	司 令	司 令 補	士 長	副 士 長	消 防 士	事 務 員	計
20 歳未満								
20 歳以上						5		5
25 歳以上					1	4		5
30 歳以上				5	3			8
35 歳以上			1	8	1			10
40 歳以上		1	1	3				5
45 歳以上		4	3					7
50 歳以上		1						1
55 歳以上	1	4	2					7
合 計	1	10	7	16	5	9		48

(消防職員の平均年齢 38.9 歳)

消防団員の年齢・階級別表

(平成 25 年 4 月 1 日現在)

階級 年齢	団 長	副 団 長	本部部長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
20 歳未満								3	3
20 歳以上							1	11(1)	12(1)
25 歳以上							2	24(1)	26(1)
30 歳以上					2		11(1)	21	34(1)
35 歳以上			2	1		3	4(1)	17	27(1)
40 歳以上			3	3	3(1)	3(1)	2	15(2)	29(4)
45 歳以上		3	1					3	7
50 歳以上	1								1
55 歳以上									
合 計	1	3	6	4	5(1)	6(1)	20(2)	94(4)	139(8)

※() 女性消防団員

(消防団員の平均年齢 33.7 歳)

消防本部の配備車両

区分 車 別	車 名	排気量 (cc)	機 装 メーカー	購 入 年 月	登 録 番 号	備 考
災 害 対 応 水 槽 付 消 防 ポ ン プ 車	日 野	6,400	小川ポンプ	H24・3	沼津802 す 1	1 号 車
水槽付消防ポンプ車	日 野	7,960	小川ポンプ	H 9・12	沼津88 な 2128	3 号 車
救 助 工 作 車	日 野	7,960	畠山ポンプ	H12・2	沼津800 は 121	41 号車
高規格救急自動車	日 産	3,490	静 岡 日 産	H17・2	沼津830 さ 91	救急1号車
高規格救急自動車	トヨタ	2,693	静岡トヨタ	H20・12	沼津830 す 92	救急2号車
高規格救急自動車	トヨタ	2,693	静岡トヨタ	H23・11	沼津830 す 93	救急3号車
指 令 車	トヨタ	1,980	小川ポンプ	H13・3	沼津830 す 51	
広 報 車	トヨタ	1,990	小川ポンプ	H17・8	沼津830 す 52	
作 業 車	いすゞ	3,050	小川ポンプ	H13・3	沼津830 す 61	

消防団の配備車両

区分 車 別	車 名	排気量 (cc)	機 装 メーカー	購 入 年 月	登 録 番 号	配 備 先
団 本 部 広 報 車	ホンダ	1,990	小川ポンプ	H13・12	沼津800 さ 5435	団 本 部
消防ポンプ車(CD-I)	いすゞ	2,990	小川ポンプ	H19・11	沼津801 や 1	第1分団
小型動力ポンプ付 積 載 車	いすゞ	3,059	小川ポンプ	H19・3	沼津801 む 1	第1分団
消防ポンプ車(CD-II)	日 野	7,960	畠山ポンプ	H16・2	沼津800 ね 2	第2分団
防 災 活 動 車	マツダ	1,780	マ ツ ダ	H20・2	沼津800 す 1679	第2分団
消防ポンプ車(CD-II)	日 野	7,960	畠山ポンプ	H13・12	沼津800 セ 3	第3分団
消防ポンプ車(CD-I)	いすゞ	2,990	小川ポンプ	H24・11	沼津830 つ 4	第4分団

消防無線施設の状況

無線周波数 占有波:153.55MHz 県内波:149.69MHz
 全国波1:150.73MHz 全国波2:148.75MHz 全国波3:154.15MHz
 (平成25年4月1日現在)

種別	区分	設置場所	呼出名称	出力	備考
基地局		消防署	ながいずみしょうぼう	5 W	NEC
移動局		1号車	ながいずみ 1	〃	〃
〃		消防署	〃 2	〃	〃
〃		3号車	〃 3	〃	〃
〃		救助工作車	〃 41	〃	〃
〃		指令車	〃 51	〃	〃
〃		広報車	〃 52	〃	〃
〃		作業車	〃 61	〃	〃
〃		消防署	〃 62	〃	東洋通信
〃		救急1号車	きゅうきゅうながいずみ 1	〃	NEC
〃		救急2号車	〃 2	〃	〃
〃		救急3号車	〃 3	〃	〃
携帯無線		消防署	ながいずみ 101	1 W	東洋通信
〃		〃	〃 102	〃	〃
〃		〃	〃 103	〃	〃
〃		〃	〃 104	〃	〃
〃		〃	〃 105	〃	〃
〃		〃	〃 106	〃	〃
〃		〃	〃 107	〃	〃
〃		〃	〃 108	5 W	〃
〃		〃	〃 109	〃	〃
〃		〃	〃 110	〃	〃
〃		〃	〃 111	1 W	〃
〃		〃	〃 112	〃	〃
〃		〃	〃 113	〃	〃
〃		〃	〃 114	〃	〃
〃		〃	〃 115	5 W	〃
〃		〃	〃 116	〃	〃
〃		〃	〃 117	〃	〃
〃		〃	〃 118	〃	〃
〃		〃	〃 119	〃	〃
〃		〃	〃 120	〃	〃
〃		〃	〃 121	〃	〃
〃		〃	〃 122	〃	〃
〃		〃	〃 123	〃	〃
〃		〃	〃 124	1 W	〃
〃		〃	〃 125	〃	〃

消 防 水 利

(平成 25 年 4 月 1 日現在)

防 火 水 槽

容 量 (m ³)	公 設		私 設		合 計	
		耐震		耐震		耐震
20 以上～40 未満	2	2	5 3	4 8	5 5	5 0
40 以上～60 未満	7 4	5 5	8 4	7 2	1 5 8	1 2 7
60 以上～100 未満	0	0	1 3	5	1 3	5
100 以上	6	6	9	3	1 5	9
合 計	8 2	6 3	1 5 9	1 2 8	2 4 1	1 9 1

※ 私 設 (土地利用及び企業等)

消 火 栓

	公 設	私 設	合 計
基 準	4 0 3	9	4 1 2
基 準 外	9 3	2 3 6	3 2 9
合 計	4 9 6	2 4 5	7 4 1

※ 基 準 (消防水利の基準第 3 条に適合するもの)

※ 土地利用及び柿田川工業用水の消火栓は公設に含む

※ 私 設 (駿河平・桃沢郷及び企業等)

2 火災の状況



(消防出初式写真コンクール消防長賞)

火 災 の 概 要

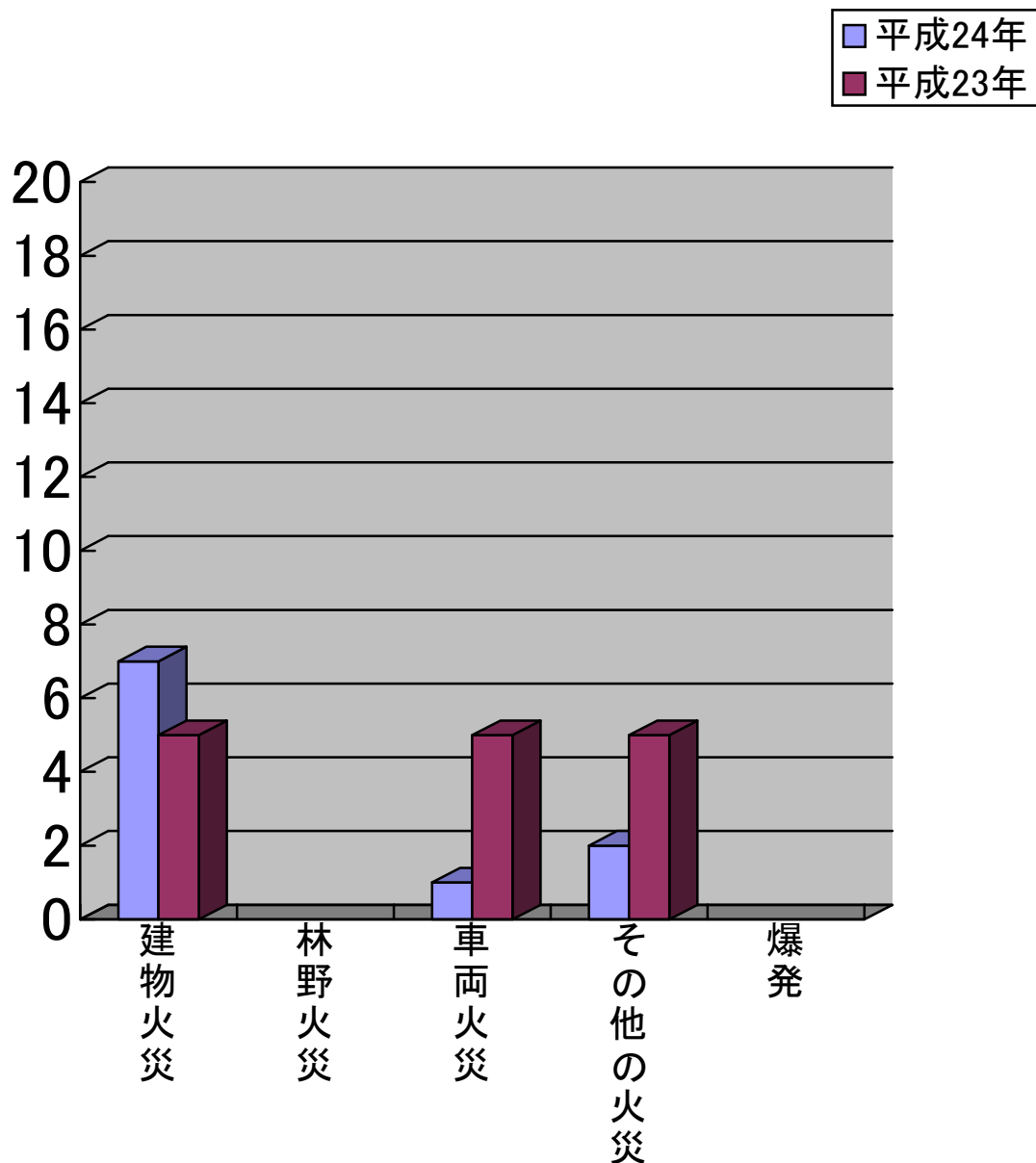
平成 24 年の 1 月から 12 月までの火災件数は 10 件で、平成 23 年の 15 件と比較すると 5 件の減である。

火災種別は「建物火災」 7 件（前年比＋ 2）、「車両火災」 1 件（前年比－ 4）、「その他火災」 2 件（前年比－ 3）、となっている。

また、火災種別の割合は、建物火災 70.0%、車両火災 10.0%、その他の火災 20.0%となっている。

前年に比較して、火災件数は減少し、損害額は約 41,970 千円増加した。

火 災 種 別 前 年 比 較



消 防 本 部 ・ 署 消 防 団 火 災 出 場 状 況

(平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

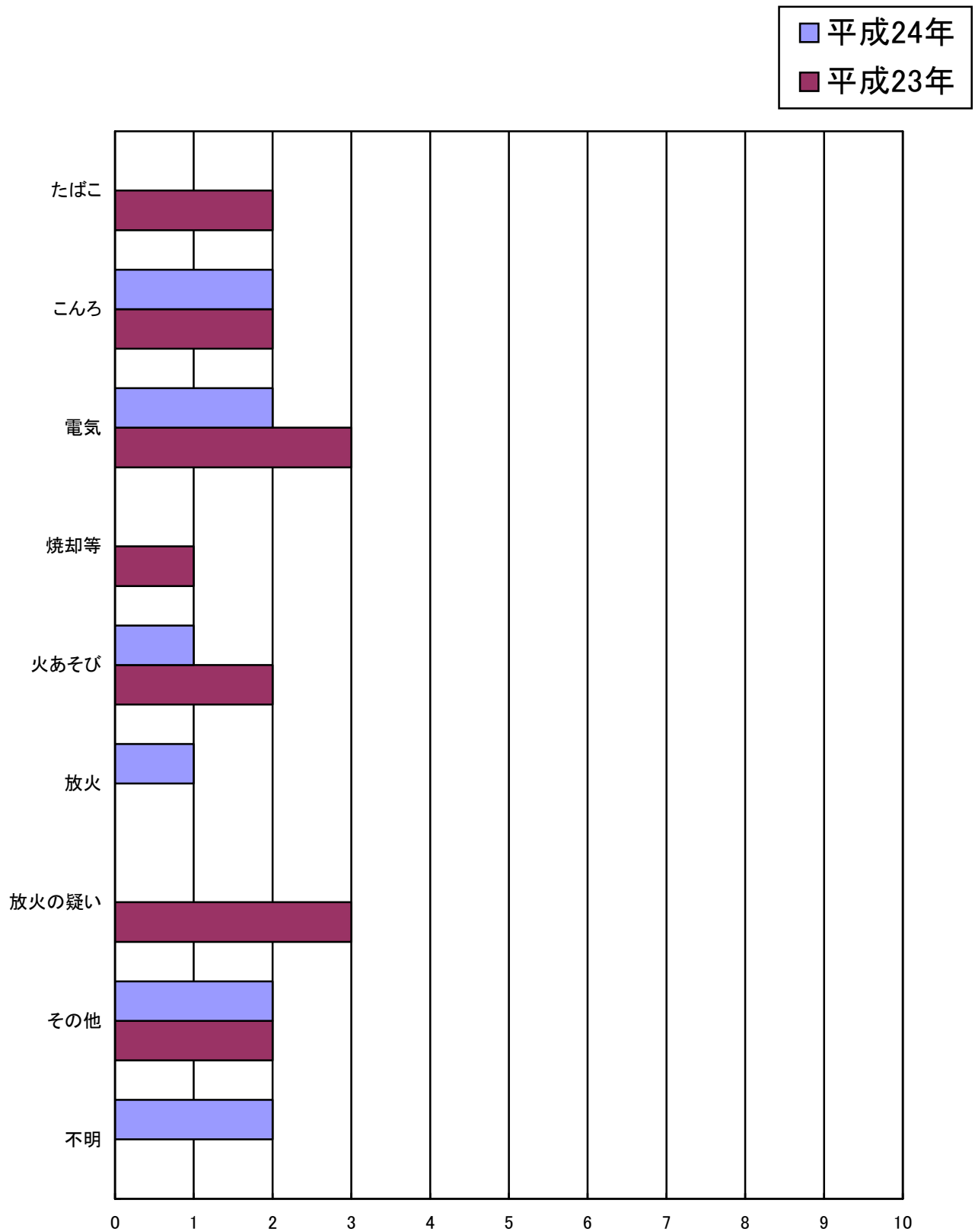
区分 月別	消防本部・署			火 災 件 数	消 防 団		
	人員	出場車両			人員	出場車両	
		ポンプ車	その他			ポンプ車	その他
1							
2							
3	4 6	4	9	2	6 7	4	
4	1 6	3	2	3			
5							
6	1 5	2	3	1	6 3	4	
7							
8							
9	1 8	2	4	1	4 2	5	
1 0	1 2	2	3	1	1 1	1	
1 1	2 9	4	5	2	8 4	7	
1 2							
合 計	1 3 6	1 7	2 6	1 0	2 6 7	2 1	

覚 知 別 火 災 発 生 状 況

(平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

種 別 覚 知 別	件数	火 災 種 別				
		建物	林野	車両	その他	爆発
火災通報専用電話	7	5			2	
一 般 加 入 電 話	1	1				
駆 け 付 け						
事 後 聞 知	1	1				
そ の 他	1			1		
合 計	1 0	7		1	2	

原因別件数



平成24年月別火災発生状況と前年比較

区 分	火 災 件 数						焼 損 棟 数				り 災 世 帯				爆 発		焼 損 面 積			死 傷 者				損 害 額 (千 円)										
	件 数	建 物 火 災	林 野 火 災	車 両 火 災	船 舶 火 災	そ の 他 の 火 災	合 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ば や	合 計	全 損	半 損	小 損	り 災 世 帯	り 災 人 員	建物床面積㎡	建物表面積㎡	林 野 火 災 a	火 災 死 者	火 災 負 傷 者	爆 発 死 者	爆 発 負 傷 者	合 計	建 物	収 容 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	爆 発		
1月																																		
2月																																		
3月	2	1				1	1	1		1								45				1				38,086	3,870	34,216						
4月	3	2	1				2			1	1	1			1		3									3,187	612	2,075	500					
5月																																		
6月	1	1					1	1		1									2							139	108	31						
7月																																		
8月																																		
9月	1	1					2	2	1		1	2	1		1		49					1				4,232	2,004	2,228						
10月	1					1															1													
11月	2	2					6	2	2	1	2	4	1		3		343									35,302	33,051	2,127					124	
12月																																		
総数	10	7		1		2	12	2	2	4	4	7	2		5			440	2			1	2			80,946	39,645	40,677	500				124	
前年	15	5		5		5	11	2		5	4	11	2		9			393	111				7			38,976	21,792	1,350	5,515			10,319		
増減	△ 5	2		△ 4		△ 3	1	0	2	△ 1	0	△ 4	0		△ 4			47 △ 109				1 △ 5				41,970	17,853	39,327	△ 5,015			△ 10,195		

(注) △は減少を示す 1未満は0とする

曜日別・時間別火災件数

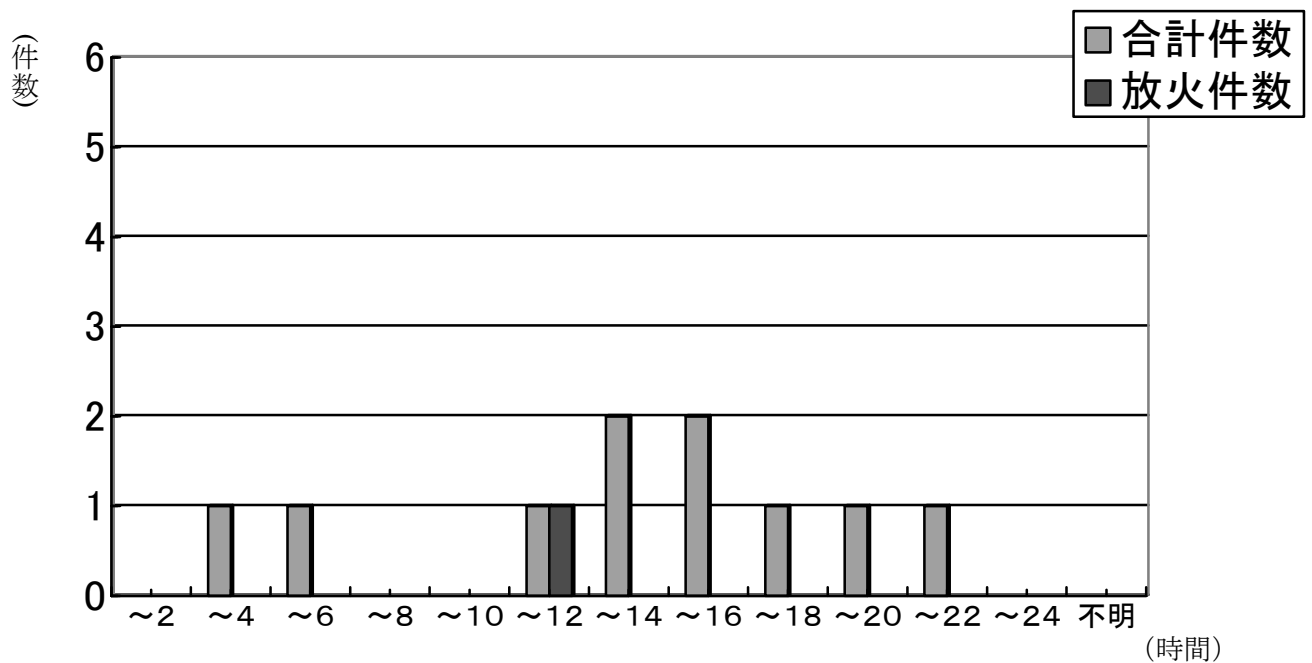
曜日別（出火日）

合計	日	月	火	水	木	金	土	不明
10	3	2	3			1	1	

時間別（出火時間）

時間 種別	合計	~2	~4	~6	~8	~10	~12	~14	~16	~18	~20	~22	~24	不明
合計	10		1	1			1	2	2	1	1	1		
建物	7		1	1					2	1	1	1		
林野														
車両	1							1						
その他	2						1	1						
爆発														

時間別放火件数



平成24年火災発生状況一覧表

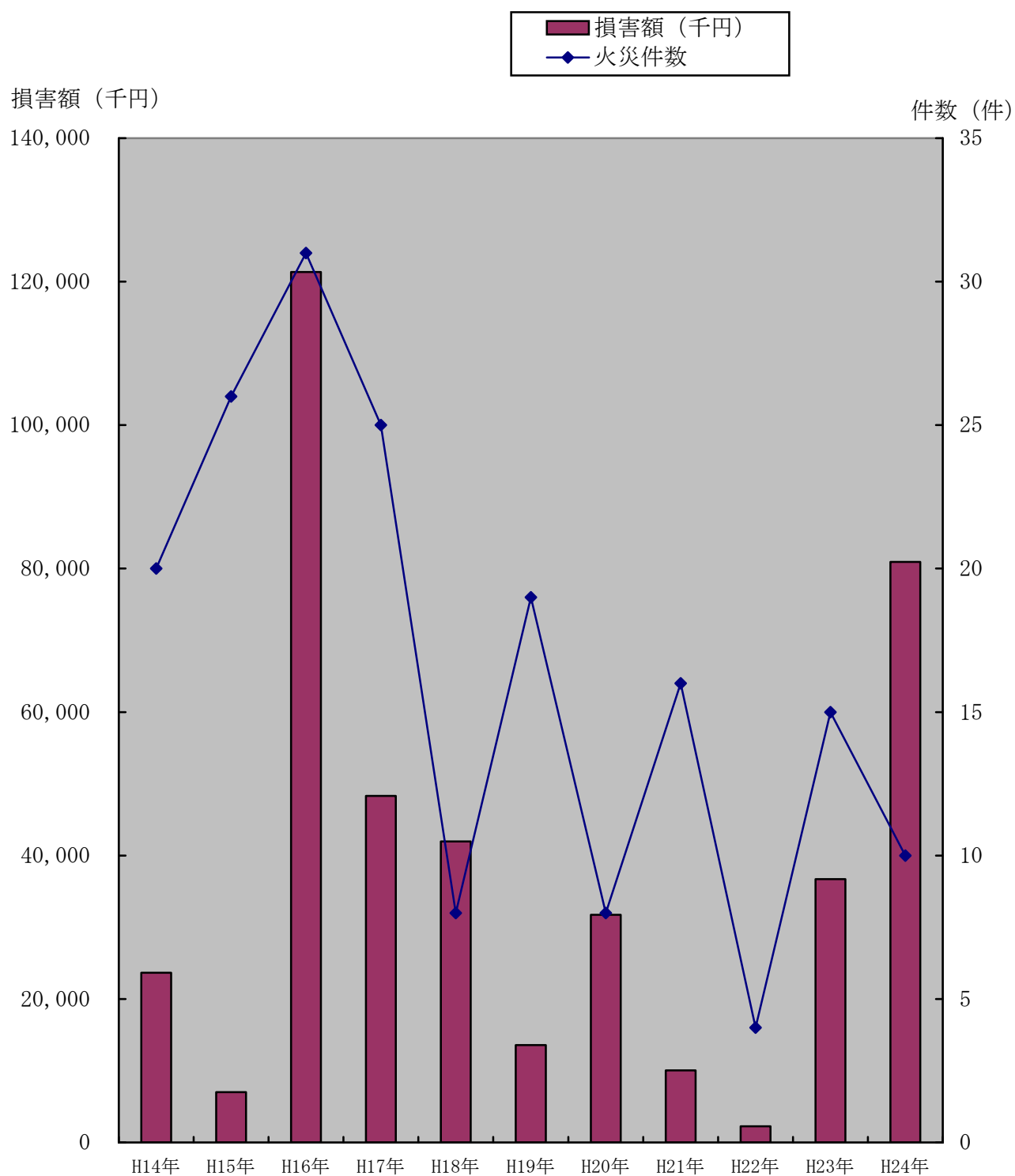
番号	出火日		覚知時間	覚知種別	住所	種別	原因	天気	風向	風速 (m/ s)	湿度 (%)	焼損面積 (㎡)	損害額 (千円)
1	3月12日	月	16:14	専用電話(固定)	下長窪	建物	静電気	晴	西南西	4	34	45.0	38,086
2	3月30日	金	12:16	専用電話(固定)	中土狩	その他	火遊び	晴	南西	6	52	—	0
3	4月17日	火	15:53	事後聞知	上長窪	建物	不明	雨	東	3	70	3.0	542
4	4月21日	土	4:18	加入電話(固定)	下土狩	建物	過負荷通電	晴	北東	3	85	—	2,145
5	4月30日	月	12:34	その他	東名	車両	高温体接触 (排気管)	晴	北北東	1	67	—	500
6	6月26日	火	22:00	専用電話(固定)	下土狩	建物	こんろ	晴	東	2	66	2.0	139
7	9月23日	日	14:18	専用電話(携帯)	桜堤	建物	不明	雨	南南東	3	97	49.5	4,232
8	10月21日	日	10:15	専用電話(携帯)	下長窪	その他	放火 (自損)	晴	南西	0	57	—	0
9	11月18日	日	3:31	専用電話(固定)	中土狩	建物	トラッキンググ	晴	南南東	2	80	343.0	35,293
10	11月27日	火	18:59	専用電話(固定)	下土狩	建物	こんろ	晴	東北東	3	45	—	9

過去10年間の火災発生状況と本年比較

区分	火 災 件 数					焼 損 棟 数				り 災 世 帯			り 災 人 員	爆 発		焼 損 面 積			死 傷 者				損 害 額 (千 円)													
	件 数	建物火災	林野火災	車両火災	船舶火災	その他の火災	爆 発	合 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や		合 計	全 損	半 損	小 損	り 災 世 帯	り 災 人 員	建物床面積㎡	建物表面積㎡	林野火災 a	火 災	死 者	負 傷 者	爆 発	死 者	負 傷 者	合 計	建 物	収 容 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	爆 発
年 別																																				
H14	20	9	2			9		13	3		7	3	5	1		4	18		243	133		1	2					23,654	20,986	2,647		21				
H15	26	17	1			8		22	5		9	8	16	1		15	44		152	29		2	3					7,019	2,498	4,319		38			164	
H16	31	12	2			17	1	22	6		10	6	19	4		15	57		681	115		1	1		2			121,153	75,523	45,084		400			146	205
H17	25	15	5			5		20	6	2	6	6	11	1	4	6	38		589	48		1	6					48,328	39,005	6,135		2,894			294	
H18	8	5	2			1		13	3	1	4	5	10	3		7	24		388	24		1	2					41,978	12,086	8,999		16,129			4,764	
H19	19	9	1			9		9			4	5	4	1	1	2	9		96	2			4					13,563	6,720	6,154					689	
H20	8	4	1			3		6	2	1		3	8	4		4	14		178	56		1	2					31,744	29,221	1,873		648			2	
H21	16	6	4			6		9	2	1	2	4	4	2		2	8		118	25		2	2					10,060	7,451	1,129		1,434			46	
H22	4	1	2			1		3				3	3			3	9			6			2					2,252	303	2		1,947				
H23	15	5	5			5		11	2		5	4	11	2		9	27		393	111			7					38,976	21,792	1,350		5,515			10,319	
平均	17	8	2			6	0	12	2	0	4	4	9	1	0	6	24		283	54		0	3		0			33,872	21,558	7,769		2,902			1,642	20
H24	10	7	1			2		12	2	2	4	4	7	2		5	21		440	2		1	2					80,946	39,645	40,677		500			124	

(注) 1 未満は0とする

過去 10 年間の火災件数と損害額の推移



3 予 防 業 務 の 状 況



(出初式写真コンクールまとい会長賞)

全国統一防火標語

昭和４１年度	火の始末人にたのむな 任せるな	平成 ２年度	まず消そう 火への鈍感 無関心
昭和４２年度	さあ ねようアッそのまえに火の点けん	平成 ３年度	毎日が 火の元警報 発令中
昭和４３年度	あなたは火事の恐ろしさを知らない	平成 ４年度	点検を 重ねて築く“火災ゼロ”
昭和４４年度	今捨てたタバコの温度が７００度	平成 ５年度	防火の輪 つなげて広げて なくす火事
昭和４５年度	防火三百六十五日	平成 ６年度	安心の 暮らしの中心 火の用心
昭和４６年度	いま燃えようとしている火がある	平成 ７年度	災害に 備えて日頃の 火の用心
昭和４７年度	慣れた火に 新たな注意	平成 ８年度	便利さに 慣れて忘れる 火のこわさ
昭和４８年度	隣にも声かけあってよい防火	平成 ９年度	つけた火は ちゃんと消すまで あなたの火
昭和４９年度	生活の一部にしよう 火の点検	平成１０年度	気をつけて はじめはすべて 小さな火
昭和５０年度	幸せを明日につなぐ 火の始末	平成１１年度	あぶないよ ひとりぼっちにした その火
昭和５１年度	火災は人災 防ぐはあなた	平成１２年度	火をつけた あなたの責任 最後まで
昭和５２年度	使う火を消すまで離すな 目と心	平成１３年度	たしかめて。火を消してから 次のこと
昭和５３年度	それぞれの持場で生かせ 火の用心	平成１４年度	消す心 置いてください 火のそばに
昭和５４年度	これくらいと思う油断を火が狙う！	平成１５年度	その油断 火から炎へ 災いへ
昭和５５年度	あなたです！ 火事を出すのも防ぐのも	平成１６年度	火は消した？ いつも心に きいてみて
昭和５６年度	毎日が防火デーです ぼくの家	平成１７年度	あなたです 火のあるくらしの 見はり役
昭和５７年度	火の用心 心で用心 目で用心	平成１８年度	消さないで あなたの心の 注意の火。
昭和５８年度	点検は 防火のはじまり しめくくり	平成１９年度	火は見てる あなたが離れる その時を
昭和５９年度	“あとで”より“いま”が大切 火の始末	平成２０年度	火のしまつ 君がしなくて 誰がする
昭和６０年度	怖いのは「消したつもり」と「消えたはず」	平成２１年度	消えるまで ゆっくり火の元 にらめっ子
昭和６１年度	防火の大役 あなたが主役	平成２２年度	「消したかな」 あなたを守る 合言葉
昭和６２年度	消えたかな！ 気になるあの火 もう一度	平成２３年度	消したはず 決めつけないで もう一度
昭和６３年度	その火 その時 すぐ始末！	平成２４年度	消すまでは 出ない 行かない 離れない
平成 元年度	おとなりに あげる安心 火の始末	平成２５年度	消すまでは 心の警報 ONのまま

予 防 業 務 の 概 要

平成 25 年 3 月 31 日現在における当町の査察対象物は、防火対象物 1,394 対象物、危険物施設 169 施設であり、平成 24 年度中の防火対象物に対する査察件数は 287 件、危険物施設に対する査察件数は 45 件であった。

防 火 管 理 実 施 概 要

消防法は、学校、病院、工場、百貨店等の多数の者が出入りし、勤務し、又は居住する防火対象物の管理について権原を有する者に、一定の資格を有する者の中から防火管理者を選任し、その旨を届出なければならないことを定めている。また、防火管理者に消防計画を作成させ、その消防計画に基づき、消火、通報及び避難訓練の実施、消防用設備等の点検及び整備、火気の使用又は取扱いの監督等の防火管理上必要な業務を実施させなければならない。平成 25 年 3 月 31 日現在の当町の防火管理状況は、防火管理者選任率 93.1%、消防計画作成率 88.0%となっている。

防 火 対 象 物 数 及 び 査 察 状 況

(平成24年度)

項 目 防火対象物の区分			防火対象物数	査 察 実 施 数	防 火 管 理 者 選 任 義 務 対 象 物 数	防火管理者を 選任している 防火対象物数		消 防 計 画 を 作成している 防火対象物数	
							選任率 (%)		届出率 (%)
1	イ	劇場等	1		1	1	100	1	100
	ロ	公会堂等	28	4	28	28	100	28	100
2	イ	キャバレー等							
	ロ	遊技場・ダンスホール	7	4	7	7	100	7	100
	ハ	性風俗店舗等							
	ニ	カラオケボックス等	1		1	1	100	1	100
3	イ	待合・料理店							
	ロ	飲食店	16	6	15	14	93.3	10	66.7
4		百貨店・マーケット	38	12	31	26	83.9	25	80.6
5	イ	旅館・ホテル等	7	8	5	5	100	5	100
	ロ	共同住宅等	620	91	76	71	93.4	67	88.2
6	イ	病院等	17	5	7	6	85.7	4	57.1
	ロ	老人短期入所施設等	10	7	9	7	77.8	7	77.8
	ハ	老人デイサービス等	18	16	14	13	92.9	13	92.9
	ニ	幼稚園・盲学校等	6		6	6	100	6	100
7		学校・各種学校	19		9	9	100	9	100
8		図書館等	10	2	4	4	100	4	100
9	イ	蒸気・熱気浴場等							
	ロ	公衆浴場							
10		停車場等							
11		神社・寺院・教会							
12	イ	工場・作業所	239	38	15	15	100	15	100
	ロ	映画・テレビスタジオ							
13	イ	駐車場等	8	3					
	ロ	飛行機等の格納庫							
14		倉庫	105	24	3	2	66.7	2	66.7
15		その他の事業所	130	44	26	24	92.3	22	84.6
16	イ	特定複合用途	46	13	35	33	94.3	30	85.7
	ロ	特定以外複合用途	68	10	25	23	92.0	23	92.0
16の2		地下街							
16の3		準地下街							
17		文化財等							
計			1394	287	317	295	93.1	279	88.0

消 防 同 意 の 事 務 処 理 状 況

消防同意は、消防が防火の専門家という立場から建築物の火災予防について設計の段階から関与して建築物の安全性を高めるために設けられた制度である。消防は、建物の建築確認に際しての同意などを通じて防火、防災に対する指導を行っている。

当町における消防同意の事務処理状況は次のとおりである。

(平成 24 年度)

申 請 要 旨	同 意		合 計
	指 導 無 し	指 導 有 り	
新 築	4 5	1 0	5 5
増 築	5	1	6
計 画 変 更	1 0		1 0
用 途 変 更			
許 可	1 1		1 1
合 計	7 1	1 1	8 2

予 防 関 係 事 務 処 理 状 況

(平成 24 年度)

防火・防災管理者選任解任届	6 2 件
消防計画（消防・防災）作成変更届	6 7 件
消防訓練実施報告	2 2 5 件
消防用設備等着工届	1 1 4 件
消防用設備等設置届	1 6 0 件
消防用設備等の点検結果報告	5 7 1 件
消防用設備等の特例申請	3 件
消防用設備等検査済証交付	1 3 6 件
煙火の消費許可申請	0 件
り災証明交付	3 6 件

防火管理資格取得講習開催状況

消防法に規定されている防火管理に関する資格取得講習を当町では、ほぼ毎年開催し、平成 24 年度は 50 名が資格を取得した。

(平成 24 年度)

回数	区分	修了者数	講習時間
1	甲種防火管理新規講習	50 名	10 時間

消防用設備等の検査状況

消防用設備等とは、消火設備、警報設備、避難設備、消防用水及び消火活動上必要な施設であり、火災による被害の軽減を図るという消防の目的を達成するために不可欠なものである。

当町における消防用設備等の検査状況は次のとおりである。

(平成 24 年度)

総 数	消火設備							警報設備				避難設備		消防用水	消火活動上必要な施設		
	消火器	屋内消火栓設備	スプリンクラー設備	パッケージ型消火設備	粉末消火設備	屋外消火栓設備	不活性ガス消火設備	自動火災報知設備	火災通報装置	非常警報設備	非常放送設備	避難器具	誘導灯		非常コンセント設備	連結送水管	連結散水設備
214	32	7	4		2	2	1	108	6	9	3	5	32		1	2	

危 険 物 規 制

消防法は、同法別表第1に掲げる発火性又は引火性を有する物品を危険物とし、これらの危険物について保安上の規制を定めている。危険物をその性質により6類に分類しているが貯蔵量及び取扱量が圧倒的に多い物品は、ガソリン、灯油、軽油等の石油類である。

一定数量以上の危険物は、製造所、貯蔵所又は取扱所に分類される危険物施設以外の場所で貯蔵し、又は取り扱ってはならず、このような危険物を設置しようとする者は、その位置、構造及び設備を政令で定める一定の基準に適合させ、市町村長の許可を受けなければならないものとされている。

危 険 物 施 設

ア 危険物施設の数及び査察状況

平成25年3月31日現在における当町の危険物施設の数 は 169 施設で前年同期（180 施設）に比べ 11 施設の減である。

製造所等の別では、屋外タンク貯蔵所 50 施設（全体の 29.6%）と最も多く、次いで一般取扱所の 35 施設（全体の 20.7%）、地下タンク貯蔵所の 27 施設（全体の 16.0%）となっている。

なお、石油製品を中心とする第4類の危険物を貯蔵し、又は取り扱う危険物施設は 167 施設と全体の 98.8%を占めている。

また、査察は 45 施設実施し、査察率は 26.6%である。

危険物施設の数及び査察状況

(平成24年度)

製造所等の別 区分	合 計	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	一 般 取 扱 所
施 設 の 数	169	28	50	2	27	2	4	21	35
査 察 件 数	45	4		1	15	2		16	7

イ 危険物施設の規模別構成比

平成 25 年 3 月 31 日現在における危険物施設の倍数別（貯蔵最大数量又は取扱最大数量によるもの）の構成比は下記の表のとおりである。

当町の特徴としては、化学工場が多いため 200 倍を超える大規模な施設が全体の 16.0%となっている。

危険物施設の倍数別構成表

(平成 24 年度)

製造所等の別 区 分	合 計	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	一 般 取 扱 所
5 倍以下	43	13	1	2	14	2	2	3	6
5 倍を超え 10 倍以下	29	7	3		6		2	4	7
10 倍を超え 50 倍以下	45	6	19		6			4	10
50 倍を超え 100 倍以下	13	1	8					1	3
100 倍を超え 150 倍以下	6	1	2		1				2
150 倍を超え 200 倍以下	6		2					3	1
200 倍を超え 1,000 倍以下	25		13					6	6
1,000 倍を超え 5,000 倍以下	2		2						
5,000 倍を超え 10,000 倍以下									
10,000 倍を超えるもの									
合 計	169	28	50	2	27	2	4	21	35

(注) 倍数は貯蔵最大数量又は取扱最大数量を消防法別表第 1 で定める指定数量で除して得た数値である。

危険物関係事務処理状況

(平成 24 年度)

製造所等の別 区 分		合 計	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	一 般 取 扱 所
合 計		160	16	18		29	6	2	29	60
設 置	許 可	3	2				1			
	完 成	3	2				1			
変 更	許 可	10							3	7
	完 成	12							3	9
常 置 場 所 変 更		3					3			
仮 使 用 承 認		9							3	6
仮 取 扱 承 認										
小 計		40	4				5		9	22
水 張 検 査		6								6
水 圧 検 査		4							4	
小 計		10							4	6
予 防 規 程 制 定 ・ 変 更 認 可 申 請		2							1	1
種 類 ・ 数 量 変 更 届 出		3	2	1						
設 置 者 氏 名 変 更 届 出		37	5	13		4			3	12
軽 微 な 変 更 届 出		27	1	4		1			5	16
廃 止 届 出		9	1			3	1	1	1	2
保 安 監 督 者 届 出		15	3			6		1	4	1
定 期 点 検 報 告 書		17				15			2	
小 計		110	12	18		29	1	2	16	32

自衛消防組織等を設ける事業所

一定の危険物施設の所有者等で同一事業所において一定以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う者には、化学消防車と人員によって構成されている自衛消防組織の設置、施設の維持管理を担当する要員としての危険物保安員等の指定又は施設の災害防止のため事業所内の予防規程の作成が義務付けられている。

平成 25 年 3 月 31 日現在における当町の危険物施設保有事業所 55 事業所のうち、危険物保安員を要する事業所は 2 事業所であり、予防規程の作成が義務付けられている事業所は 14 事業所である。

消防法による届出状況

(平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

根 拠 条 文	届 出 の 種 類	届 出 件 数
法第 9 条の 3	圧縮アセチレンガス等の貯蔵・取扱いの届出	1 7

火災予防条例による届出状況

(平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

根 拠 条 文	届 出 の 種 類	届 出 件 数
条例第 23 条	火の使用に関する制限等	1 0
条例第 43 条	防火対象物の使用開始の届出等	3 6
条例第 44 条	火を使用する設備等の設置の届出	4 0
条例第 45 条	火災とまぎらわしい煙等を発するおそれのある行為等の届出	3 7
条例第 45 条	煙火の打上げ又は仕掛け	3
条例第 45 条	催物の開催	2
条例第 45 条	水道の断水又は減水	1
条例第 45 条	道路工事	1 0 0
条例第 46 条	指定数量未満の危険物等の貯蔵及び取扱いの届出等	1 8
合 計		2 4 7

訓練指導等の状況

(平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 24 日)

区分 種別		事業所	学校等	幼稚園等	その他の団体	合 計
火災訓練	回数	2 7	2	4	6	3 9
	人数	5 6 6	4 0 6	5 0 1	8 5 4	2, 3 2 7
予防指導	回数		3	1 2		1 5
	人数		3 2 9	1, 6 7 9		2, 0 0 8
救急訓練	回数	9	1 0	6	1 5	4 0
	人員	1 4 2	3 1 9	1 5 5	7 8 1	1, 3 9 7
その他 の訓練	回数	1	1		4	6
	人数	5	1 2 2		3 1 7	4 4 4
総 数	回数	3 7	1 6	2 2	2 5	1 0 0
	人数	7 1 3	1, 1 7 6	2, 3 3 5	1, 9 5 2	6, 1 7 6

- 備考 ※ 火 災 訓 練・・・避難・通報・消火等火災を想定した訓練
 ※ 予 防 指 導・・・花火指導・庁舎見学等火災予防を目的とした指導
 ※ 救 急 訓 練・・・普通救命講習及び救急指導等
 ※ その他の訓練・・・上記以外のその他の訓練

6 5 歳以上の高齢者世帯に対する防火診断実施状況

実 施 期 間	実施世帯数	住宅用火災警報器 設置済み世帯数
平成 24 年 10 月 17 日～ 11 月 4 日	2 8	2 7

4 救急業務の状況



(救急訓練風景)

救 急 業 務 の 概 要

平成 24 年中における救急出場件数は 1,350 件(前年比 13 件(0.9%)増)搬送人員は、1,243 人(同 5 人(0.4%)減)で、町民 33 人に 1 人の割合で搬送し、1 日平均 3.7 件の出場となっている。

事故種別で見ると、急病が最も多く出場 783 件(58.0%)、次いで転院搬送 185 件(13.7%)、以下、一般負傷、交通事故、労働災害、自損行為、運動競技、火災の順となっている。

急病にかかる疾病別搬送人員では、症状・徴候・診断名不明確の状態が最も多く 296 人(急病全体の 40.9%)、次いで循環器系 131 人(同 18.1%)が多くなっている。

高齢者(65 歳以上)の搬送状況は 612 人で搬送人員全体の 49.2%(前年比 1 人減)、事故種別では急病が最も多く 402 人で 65.7%を占める。

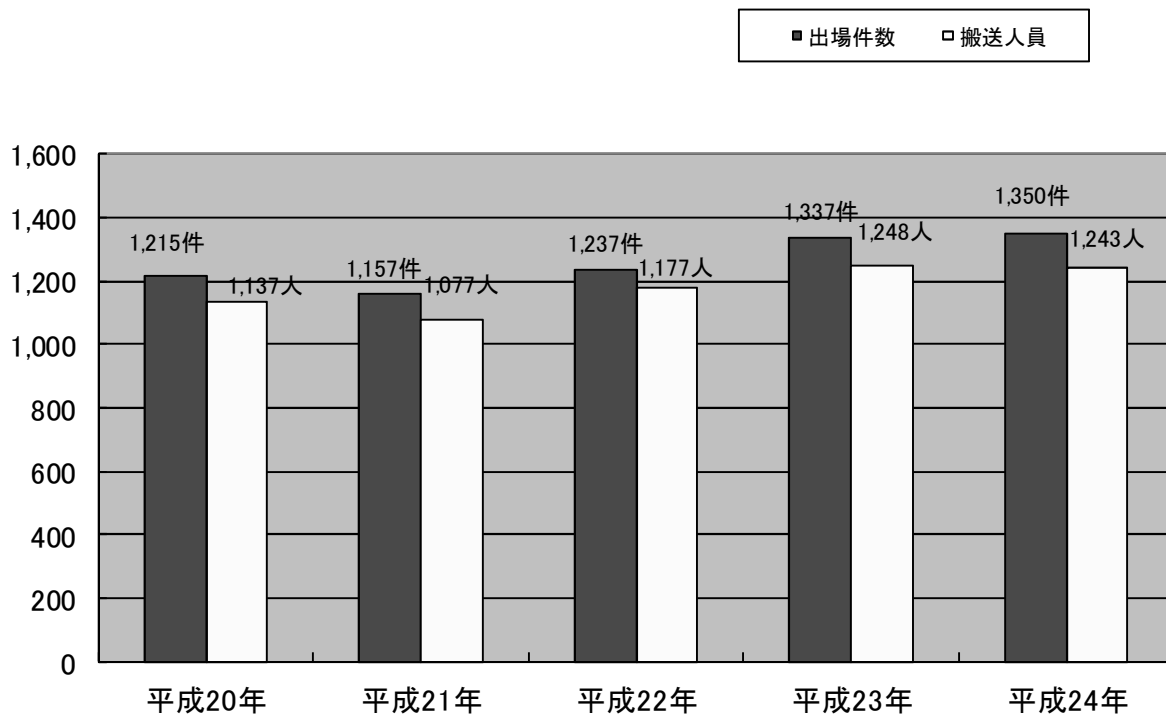
心肺停止傷病者は 47 人発生、うち 30 人に対し救急隊による心肺蘇生が施され医療機関に搬送された。

普通救命講習は開始以来、平成 24 年末までに延べ 5,435 人(再講習含む)に修了証を交付した。

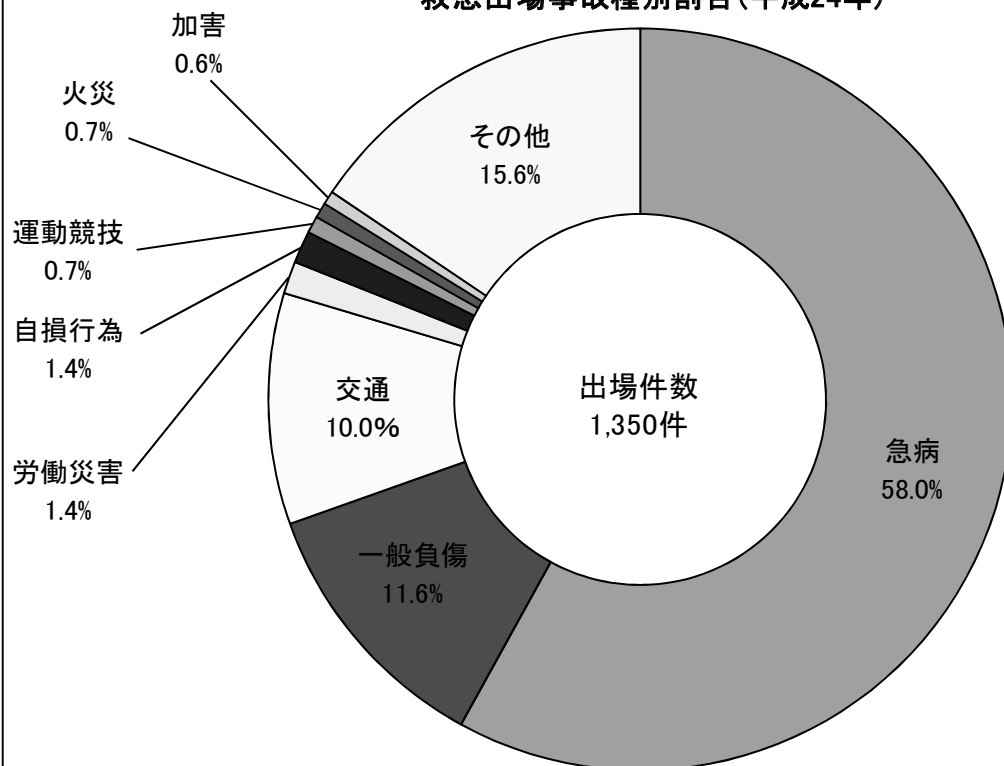
年 別 救 急 活 動 状 況

種別 年		火災	自然 災害	水難	交通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	その他	小計	不 搬送	合計
平成 20年	出場 件数	9			149	15	16	142	5	17	717	145			1, 215
	救急 件数	2			139	15	15	133	4	11	668	129	1, 116	99	1, 215
	搬送 人員	2			155	15	15	134	4	11	671	130			1, 137
平成 21年	出場 件数	14		1	155	18	11	143	7	14	620	174			1, 157
	救急 件数	1		1	145	17	11	131	7	10	586	150	1, 059	98	1, 157
	搬送 人員	1		1	160	17	11	132	7	10	586	152			1, 077
平成 22年	出場 件数	4		1	152	20	15	144	11	14	718	158			1, 237
	救急 件数	2		1	145	20	14	133	9	13	668	141	1, 146	91	1, 237
	搬送 人員	2		1	172	20	14	133	10	13	669	143			1, 177
平成 23年	出場 件数	16	1		144	17	14	155	3	14	753	220			1, 337
	救急 件数	6	1		128	17	14	140	3	12	713	195	1, 229	108	1, 337
	搬送 人員	7	1		143	17	14	141	3	12	714	196			1, 248
平成 24年	出場 件数	9			136	19	10	156	8	19	783	210			1, 350
	救急 件数	1			128	19	10	144	7	14	721	190	1, 234	116	1, 350
	搬送 人員	1			138	19	10	144	7	14	723	187			1, 243

年別救急状況



救急出場事故種別割合(平成24年)



月別救急活動状況

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

種別 月	区分	救急事故種別											小計	不搬送	合計
		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
1月	出場件数				13	2		19	1	3	74	14			126
	救急件数				12	2		16	1	3	65	14	113	13	126
	搬送人員				12	2		16	1	3	65	14			113
2月	出場件数				11	2	1	13		4	78	12			121
	救急件数				11	2	1	13		3	69	12	111	10	121
	搬送人員				11	2	1	13		3	70	12			112
3月	出場件数	3			6			13	1	2	68	19			112
	救急件数	1			5			12	1	1	64	18	102	10	112
	搬送人員	1			5			12	1	1	64	17			101
4月	出場件数	1			6		1	14	1		48	22			93
	救急件数				5		1	12	1		42	20	81	12	93
	搬送人員				5		1	12	1		42	20			81
5月	出場件数				8		2	14	2	1	73	22			122
	救急件数				8		2	14	2	1	66	21	114	8	122
	搬送人員				8		2	14	2	1	66	21			114
6月	出場件数	1			7	2	2	11		1	49	12			85
	救急件数				6	2	2	11		1	47	12	81	4	85
	搬送人員				7	2	2	11		1	47	11			81
7月	出場件数				11			9		2	67	12			101
	救急件数				11			7		2	60	9	89	12	101
	搬送人員				13			7		2	60	8			90
8月	出場件数				15	6		13	1		63	23			121
	救急件数				15	6		12	1		57	19	110	11	121
	搬送人員				16	6		12	1		57	19			111
9月	出場件数	1			14	2	1	9		1	67	18			113
	救急件数				13	2	1	8			64	13	101	12	113
	搬送人員				15	2	1	8			65	13			104
10月	出場件数				17	1		10	2	4	56	19			109
	救急件数				16	1		10	1	3	54	17	102	7	109
	搬送人員				18	1		10	1	3	54	17			104
11月	出場件数	3			20	1	3	17			67	21			132
	救急件数				20	1	3	16			62	20	122	10	132
	搬送人員				22	1	3	16			62	20			124
12月	出場件数				8	3		14		1	73	16			115
	救急件数				6	3		13			71	15	108	7	115
	搬送人員				6	3		13			71	15			108
合計	出場件数	9			136	19	10	156	8	19	783	210			1,350
	救急件数	1			128	19	10	144	7	14	721	190	1,234	116	1,350
	搬送人員	1			138	19	10	144	7	14	723	187			1,243

救急隊員の行った応急処置

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

処置	程度	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
応急処置人数		18	101	474	650		1,243
止血			1	8	30		39
固定		3	6	26	94		129
人工呼吸			4				4
胸骨圧迫	自動						
心肺蘇生		15	15				30
	自動	2	3				5
酸素吸入		17	63	165	68		313
気道確保		15	26	5	2		48
	※1		2				2
	※2		1				1
	※3	2	4				6
	※4						
保温		5	43	225	243		516
被覆		1	5	15	83		104
在宅療法継続			2	2	1		5
	※A						
	※B						
	※C		2	2	1		5
ショックパンツ 血圧保持							
除細動							
静脈路確保			1				1
その他の応急処置		2	67	386	518		973
血圧測定		3	86	466	608		1,163
聴診器による聴取		6	22	41	20		89
血中酸素測定		3	86	469	638		1,196
心電図		18	71	231	226		546
	伝送						
アドレナリン投与							
合計		88	498	2,039	2,531		5,156

(注) 1 気道確保

※1には、経鼻エアウェイを使用して気道確保を行った件数を内数として記載。

※2には、喉頭鏡・鉗子等により異物除去を行った件数を内数として記載。

※3には、救急救命士がラリングアルマスク等を使用して気道確保を行った件数を内数として記載。

※4には、救急救命士が気管挿管処置を実施して気道確保を行った件数を内数として記載。

(注) 2 在宅療法継続欄

※Aには、在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法により点滴が施されている傷病者に対し応急処置を行った件数を内数として記載。

※Bには、気管切開孔又は人工肛門の外瘻が施されている傷病者に対し応急処置を行った件数を内数として記載。

※Cには、※A・※B以外の傷病者に対し応急処置等を行った件数を内数として記載。

急病にかかる疾病分類傷病程度別搬送人員

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

分類別 \ 程度別		死亡	重症	中等症	軽症	合計
循環系	脳疾患		13	45	15	73
	心疾患	2	11	23	22	58
消化系			2	28	30	60
呼吸系			7	14	21	42
精神系				6	33	39
感覚系			1	15	20	36
泌尿系				7	19	26
新生物			4	13	1	18
その他			4	24	47	75
症状・徴候・診断名 不明確の状態		9	18	93	176	296
合 計		11	60	268	384	723

事故種別・年齢区分別・傷病程度別搬送人員

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

種別 年齢別		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
新生児 生後28日以内	死亡												
	重症												
	中等症												
	軽症												
	その他												
	計												
乳幼児 生後29日以上 7才未満	死亡												
	重症												
	中等症							1			11		12
	軽症				3			16			28		47
	その他												
	計				3			17			39		59
少年 満7才以上 満18才未満	死亡												
	重症				1								1
	中等症						1	1			1	4	7
	軽症				10		4	10			11		35
	その他												
	計				11		5	11			12	4	43
成人 満18才以上 満65才未満	死亡				1					2	3		6
	重症				1	1				1	21	16	40
	中等症				9	6	1	5	1	5	73	64	164
	軽症	1			81	10	4	32	5	5	173	8	319
	その他												
	計	1			92	17	5	37	6	13	270	88	529
老人 満65才以上	死亡				2			1			8	1	12
	重症				1			5		1	39	14	60
	中等症				7	1		34			183	66	291
	軽症				22	1		39	1		172	14	249
	その他												
	計				32	2		79	1	1	402	95	612
合計	死亡				3			1		2	11	1	18
	重症				3	1		5		2	60	30	101
	中等症				16	7	2	41	1	5	268	134	474
	軽症	1			116	11	8	97	6	5	384	22	650
	その他												
	計	1			138	19	10	144	7	14	723	187	1,243

時間別救急出場件数

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

種別 時間	火災	自然 災害	水難	交通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	その他				合計
											転院 搬送	医師 搬送	資機 材等 輸送	その 他	
0 - 2				3			6			33	1			2	45
2 - 4	2			4	1		3	2		32					44
4 - 6				7	2		4			27	1			2	43
6 - 8				14			12		2	57				1	86
8 - 10				26	4	4	18		3	90	27			3	175
10 - 12				10	6	1	25	1	2	104	45	1		1	196
12 - 14	1			8	1	2	16		2	84	39	2		2	157
14 - 16	1			15	2	2	24		2	68	26			3	143
16 - 18	2			13	1		18	2	2	81	28			3	150
18 - 20	2			8	2	1	12	1	2	89	12			3	132
20 - 22	1			19			11		1	68	6			1	107
22 - 24				9			7	2	3	50				1	72
合計	9			136	19	10	156	8	19	783	185	3		22	1,350

曜日別救急出場件数

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

種別 曜日	火災	自然 災害	水難	交通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	その他				合計
											転院 搬送	医師 搬送	資機 材等 輸送	その 他	
月	2			20	4		32	1	3	120	35	1		4	222
火	3			20	2		11	1	5	108	32			3	185
水				25	3		18	1	5	108	30			2	192
木				14	5	1	24	1	1	100	26	2		4	178
金	2			23	1	2	21		2	124	30			4	209
土				18	2	1	32	3	1	109	27			2	195
日	2			16	2	6	18	1	2	114	5			3	169
合計	9			136	19	10	156	8	19	783	185	3		22	1,350

地域別月別出場状況

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

月 地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
東部	50	41	38	30	45	37	41	43	38	37	43	39	482
西部	35	48	41	32	45	27	39	38	40	45	47	38	475
南部	32	25	23	24	19	15	15	25	23	18	21	29	269
北部	8	6	6	5	10	5	4	12	6	6	12	8	88
沼津市		1	1				1		2				5
清水町	1									1			2
三島市			3								2		5
裾野市				1									1
新東名				1	3	1	1	3	4	2	7	1	23
合計	126	121	112	93	122	85	101	121	113	109	132	115	1,350

地域別月別搬送人員

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

月 地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
東部	45	38	35	26	44	36	38	42	36	37	39	37	453
西部	32	45	36	30	43	26	34	35	34	42	45	37	439
南部	28	23	22	20	18	15	14	21	22	18	21	27	249
北部	7	5	4	3	8	3	3	11	6	5	11	6	72
沼津市		1	1				1		3				6
清水町	1									1			2
三島市			3								1		4
裾野市				1									1
新東名				1	1	1		2	3	1	7	1	17
合計	113	112	101	81	114	81	90	111	104	104	124	108	1,243

※ 東部・・・御殿場線より東側 ※ 西部・・・御殿場線より西側
※ 南部・・・東海道新幹線より南側 ※ 北部・・・東名高速道路より北側

新東名高速道路出場状況

(平成24年4月14日～平成24年12月31日)

月 地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
上り	件数								1		1	1	3
	人員								1		1	1	3
下り	件数			1	3	1	1	3	3	2	6		20
	人員			1	1	1		2	2	1	6		14
合計	件数			1	3	1	1	3	4	2	7	1	23
	人員			1	1	1		2	3	1	7	1	17

行政区	富士市	沼津市	長泉町	裾野市	御殿場市	合計
上り				3		3
富士IC			長泉IC		御殿場JC	
下り	6	14				20

※ ・ ・ ・ ・ ・ 沼津市下りは駿河湾沼津SA含む

救 急 救 命 士 の 状 況

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

救急救命士運用状況

区 分	急病	交通	一般	その他	合計
全出場件数	783	136	156	275	1,350
救急救命士搭乗出場件数	781	136	155	270	1,342

救命処置実施状況

区 分			急病	交通	一般	その他	合計
心肺蘇生対象者			20	2	3	5	30
救急救命士搭乗隊 心肺蘇生対象傷病者			20	2	3	5	30
救命処置実施者数			4		1	1	6
救命処置	気道確保		4		1	1	6
		気管挿管					
	除細動						
	輸液						
		薬剤投与					
救命処置実施時の 医師初診時程度		死 亡	11	3	1	3	18
		重 症	9		2	1	12
		中等症					

心肺蘇生対象者収容医療機関状況

区 分	順天堂大学 医学部付属 静岡病院	沼津 市立病院	沼津医師会 内二次病院	三島医師会 内二次病院	診療所他	合計
収 容 者 数		4	23		3	30
救 命 処 置 指 示 数		5	34		2	41

現場到着時心肺停止傷病者の状況

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

心肺停止傷病者に対する心肺蘇生実施状況

区 分		急病	交通	一般	その他	合計
心肺停止傷病者		27	3	5	12	47
心肺蘇生対象傷病者		20	2	3	5	30
心肺停止時期	救急隊員が確認	3				3
	市民等により目撃	5	1	2	1	9
	目撃者なし	11	1	1	5	18
医師初診時の程度	死 亡	10	2	1	4	17
	重 症	10		2	1	13
	中等症					
1 週間後の生存者						
1 ヶ月後の生存者						

バイスタンダー実施状況

区 分		急病	交通	一般	その他	合計
心肺蘇生対象傷病者		20	2	3	5	30
口頭指導	あ り	17		3	3	23
	な し	3	2		2	7
バイスタンダー	※A E D	1		1		2
処置内容	心肺蘇生					
	胸骨圧迫	14		3	3	20
	人工呼吸	1				1

※A E D (自動体外式除細動器)

応急手当普及講習実施状況

(平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

講習内容の種別	開催回数	延べ受講者数	備 考
普通救命講習Ⅰ (3 時間)	1 3	1 9 8	
普通救命講習Ⅱ※ (4 時間)	4	5 7	
上級救命講習			
指導員講習			

※業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心肺停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定される者を対象

5 警防・救助業務の状況



(救助訓練風景)

警 防 業 務 の 概 要

平成 24 年中における警防出場件数は 142 件（前年比 7 件減）となっている。
種別で見ると、救急支援が最も多く 106 件で、次いで火災 11 件となっている。

救 助 業 務 の 概 要

平成 24 年中における救助出場件数は 16 件（前年比 2 件増）、救助活動件数 14 件（同 4 件増）、救助人員は 16 人（同 5 人増）となっている。

年別警防活動状況

種別 年別	火 災	調 査	非 火 災	風 水 害	警 戒	救 急 支 援	そ の 他	応 援	合 計
平成20年	8	19		3	5	21	1		57
平成21年	16	29		1	8	91	3		148
平成22年	4	20		1	14	77	5		121
平成23年	15	16		11	5	89	7		143
平成24年	11 (1)	10	3	1	5	106 (6)	6		142 (7)
合 計	54 (1)	94	3	17	37	384 (6)	22		611 (7)

※本表中（ ）内は、新東名高速道路内において発生したものである

月 別 警 防 活 動 状 況

(平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

種別 月別	火 災	調 査	非 火 災	風 水 害	警 戒	救 急 支 援	そ の 他	応 援	合 計
1 月		1				13	1		15
2 月		2				9	1		12
3 月	2					9	1		12
4 月	3		1	1		8 (1)			13 (1)
5 月		1			1	5			7
6 月	1	1				3	1		6
7 月		1	1		1	6			9
8 月		2				12	1		15
9 月	1					13 (2)	1		15 (2)
1 0 月	1		1		1	9 (1)			12 (1)
1 1 月	3 (1)				2	12 (2)			17 (3)
1 2 月		2				7			9
合 計	11 (1)	10	3	1	5	106 (6)	6		142 (7)

※本表中（ ）内は、新東名高速道路内において発生したものである

年 別 救 助 活 動 状 況

事 故 種 別 年 別		火 災		交 通 事 故	水 難 事 故	風 水 害 等 自 然 災 害	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	合 計
		建 物	建 物 以 外									
平成 20 年	出場件数	2		5							5	12
	活動件数	2		2							2	6
	救助人員	4		3							2	9
平成 21 年	出場件数	1		5	1						5	12
	活動件数	1		2	1						5	9
	救助人員			2	1						4	7
平成 22 年	出場件数			3	1				1		10	15
	活動件数			1					1		6	8
	救助人員								1		6	7
平成 23 年	出場件数			7			1				6	14
	活動件数			4			1				5	10
	救助人員			5			1				5	11
平成 24 年	出場件数			7 (2)			1	3	1		4	16(2)
	活動件数			6 (2)			1	2	1		4	14(2)
	救助人員			7 (3)			1	2	2		4	16(3)

※ 本表中（ ）内は、新東名高速道路内において発生したものである。

※ 本表において、「火災」とは救助隊及び消防隊が出場した火災のうち、消防機関が何らかの救助活動を行った火災を言うものである。

月 別 救 助 活 動 状 況

(平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

事故種別 月 別		火 災		交 通 事 故	水 難 事 故	風 水 害 等 自 然 災 害	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	合 計
		建 物	建 物 以 外									
1 月	出場件数			1								1
	救助人員			1								1
2 月	出場件数											
	救助人員											
3 月	出場件数							1	1		1	3
	救助人員							1	2		1	4
4 月	出場件数											
	救助人員											
5 月	出場件数											
	救助人員											
6 月	出場件数			1(1)								1(1)
	救助人員			1(1)								1(1)
7 月	出場件数										1	1
	救助人員										1	1
8 月	出場件数			1							1	2
	救助人員			1							1	2
9 月	出場件数						1				1	2
	救助人員						1				1	2
10 月	出場件数			1				1				2
	救助人員							1				1
11 月	出場件数			2				1				3
	救助人員			2								2
12 月	出場件数			1(1)								1(1)
	救助人員			2(2)								2(2)
合 計	出場件数			7(2)			1	3	1		4	16(2)
	救助人員			7(3)			1	2	2		4	16(3)

※ 本表中 () 内は、新東名高速道路内において発生したものである。

救助出場人員及び出場車両

(平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

状 況		火 災		交 通 事 故	水 難 事 故	風 水 害 等 自 然 災 害	機 械 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故	合 計
		建 物	建 物 以 外									
出 場 人 員	救助隊員			27(7)			3	9	3		15	57(7)
	消防隊員			18(8)				2	4		13	37(8)
	救急隊員			24(6)			3	9	3		12	51(6)
	合 計			69(21)			6	20	10		40	145(21)
活 動 人 員	救助隊員			25(7)			3	7	3		13	51(7)
	消防隊員			16(8)					4		11	31(8)
	救急隊員			12(3)			3				12	27(3)
	合 計			53(18)			6	7	7		36	109(18)
出 場 車 両	救助車両			7(2)			1	3	1		4	16(2)
	消防車			7(2)				1	1		4	13(2)
	指令車								1		2	3
	救急車			8(2)			1	3	1		4	17(2)
	その他										1	1
	合 計			22(6)			2	7	4		15	50(6)
活 動 車 両	救助車両			6(2)			1	2	1		3	13(2)
	消防車			6(2)					1		4	11(2)
	指令車								1		1	2
	救急車			4(1)			1				4	9(1)
	その他										1	1
	合 計			16(5)			2	2	3		13	36(5)

※ 本表中 () 内は、新東名高速道路内において発生したものである。

※ 本表において、「火災」とは救助隊及び消防隊が出場した火災のうち、消防機関が何らかの救助活動を行った火災を言うものである。

6 気象・通信の状況



(消防指令センター)

気 象 の 概 要

1 風速・風向

平成 24 年中の平均風速は、2.9m/s であった。

最大瞬間風速は 6 月 19 日に 44.0m/s を記録した。

風向は、北北東を最も多く記録した。

2 気 温

平成 24 年中の平均気温は、15.8℃で、前年 16.0℃に比べ 0.2℃低かった。

最高気温は、8 月 5 日に 33.6℃、最低気温は、2 月 3 日に－4.3℃を記録した。

3 湿 度

平成 24 年中の平均湿度は 74.2%で、前年 67.5%に比べ高かった。

4 降水量

平成 24 年中の降水量は、1589.5mm であり、前年に比べ 153.5mm 少なかった。

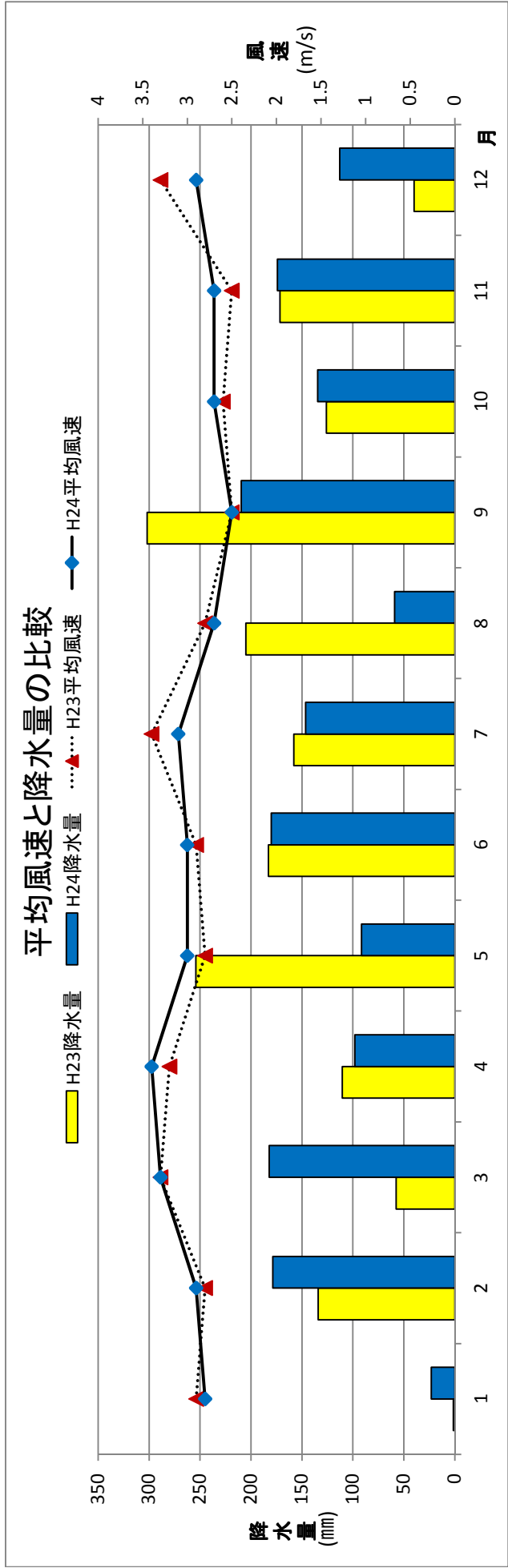
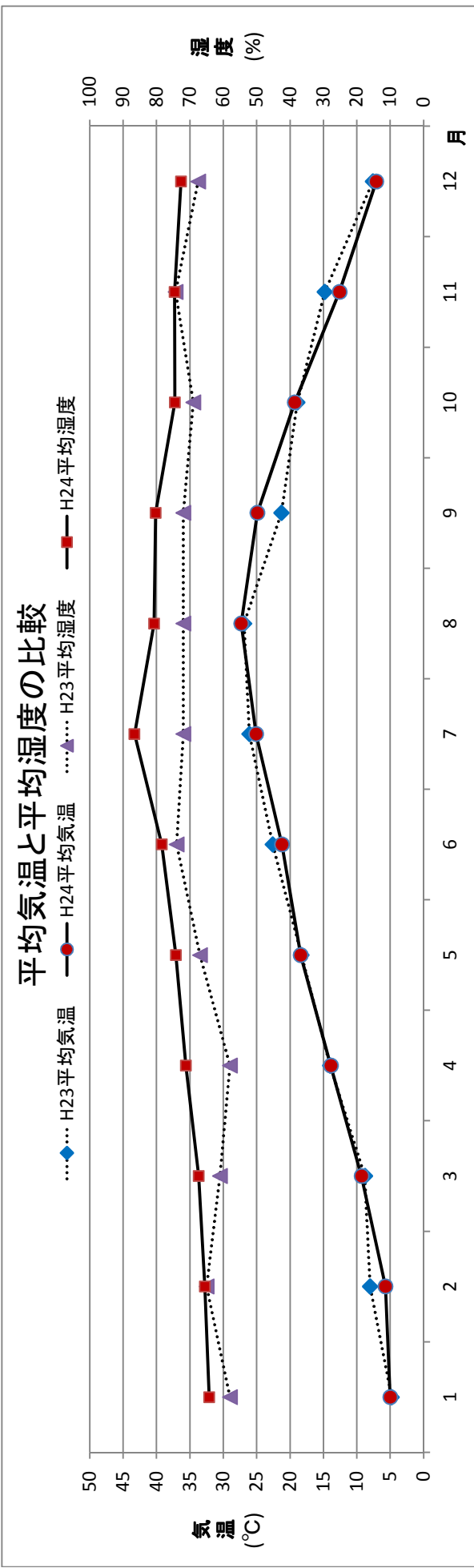
最大日雨量は、9 月 6 日に 88.0mm を記録した。

* この統計は、長泉町役場庁舎屋上に設置されている気象観測装置により、観測された集計記録である。

気象の状況

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

月	平均風速		最大瞬間風速		気温			湿度			降水量		
	(m/s)	風向	(m/s)	風向	平均(℃)	最高(℃)	最低(℃)	平均(%)	最高(%)	最低(%)	実効(%)	日最大(mm)	月積算(mm)
1	2.8	北北東	20.3	北北東	5.0	13.9	-1.7	64.2	97.5	18.8	63.8	15.0	23.0
2	2.9	北北東	27.6	南南西	5.7	20.5	-4.3	65.5	98.0	13.0	64.3	62.0	178.5
3	3.3	北北東	24.6	西南西	9.3	20.7	0.0	67.4	98.0	11.6	68.5	50.5	182.0
4	3.4	西南西	36.1	南南西	13.9	24.6	3.4	71.2	97.7	17.4	69.4	41.5	98.0
5	3.0	西南西	31.6	南西	18.4	26.5	9.2	74.2	98.0	26.3	74.5	33.0	91.5
6	3.0	東南東	44.0	南西	21.2	28.6	16.3	78.4	98.0	43.0	78.3	71.5	180.0
7	3.1	西南西	24.7	南西	25.1	32.7	18.9	86.6	98.0	56.1	85.7	42.0	146.5
8	2.7	西南西	17.0	南西	27.3	33.6	22.1	80.7	97.7	42.2	80.5	30.0	59.0
9	2.5	西	18.3	北東	24.9	32.0	17.5	80.3	97.7	38.3	80.9	88.0	209.5
10	2.7	北東	23.8	南西	19.3	29.6	11.3	74.5	98.0	32.5	74.3	42.5	134.5
11	2.7	北北東	23.5	南南西	12.6	21.6	3.8	74.6	98.3	27.4	74.5	76.0	174.0
12	2.9	北北東	24.7	西南西	7.1	16.5	-1.7	72.7	98.3	17.5	72.1	50.0	113.0
平均値	2.9	北北東	—	—	15.8	—	—	74.2	—	—	73.9	—	—
最高値 起時	—	—	44.0 6/19 23:07	南西	—	33.6 8/5 11:59	—	—	98.3 12/30 11:28	—	89.8 7/15 0:00	88.0 9/6	209.5 9月
最低値 起時	—	—	—	—	—	—	-4.3 2/3 6:21	—	—	11.6 3/21 12:35	47.0 2/3 0:00	—	—
積算値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1589.5



災 害 受 付 件 数

(平成24年 1 月 1 日～平成24年12月31日)

		火 災	救 急	救 助	他 の 災 害	問 い 合 わ せ	間 違 い 等	訓 練 他	小 計	合 計
1 1 9 番 受 信	1 1 9 番	7	519	2	8	64	55	57	712	756
	緊 急 通 報		13				15	16	44	
	F A X									
携 帯 1 1 9 番 受 信	N T T ドコモ	4	172	4	2	40	15	3	240	552
	ソフトバンク	3	85	1		19	12	1	121	
	au	3	134	3	4	26	10	11	191	
	イー・アクセス									
他 市 携 帯	転 送 受 信									484
	伝 達 受 信									
I P 電 話	ソフトバンク	1	98		2	7	5	5	118	484
	フュージョン	1	12			3			16	
	K D D I	1	56			9	4		70	
	N T T	6	205	2	1	34	21	8	277	
	C T C		3						3	
加 入 電 話	加 入 電 話	2	26	2	10				40	40
	携 帯 加 入									
専 用 電 話	警 察		15						15	22
	東 名	1	2	4					7	
	静 岡 ガ ス									
その他の方法			24		3				27	27
合 計		29	1,364	18	30	202	137	101	1,881	1,881

※平成15年4月1日からの3市2町共同通信体制に伴い、消防指令センターによる長泉町受信回数の数値である。

平成 24 年
長 泉 町 消 防 年 報
平成25年5月発行

編 集 長泉町消防本部
長泉町中土狩910番地の1
〒411-0942 TEL(055)986-1199

印刷所 沼津市原町中1丁目7番11
松本印刷株式会社
〒410-0305 TEL(055)967-6155